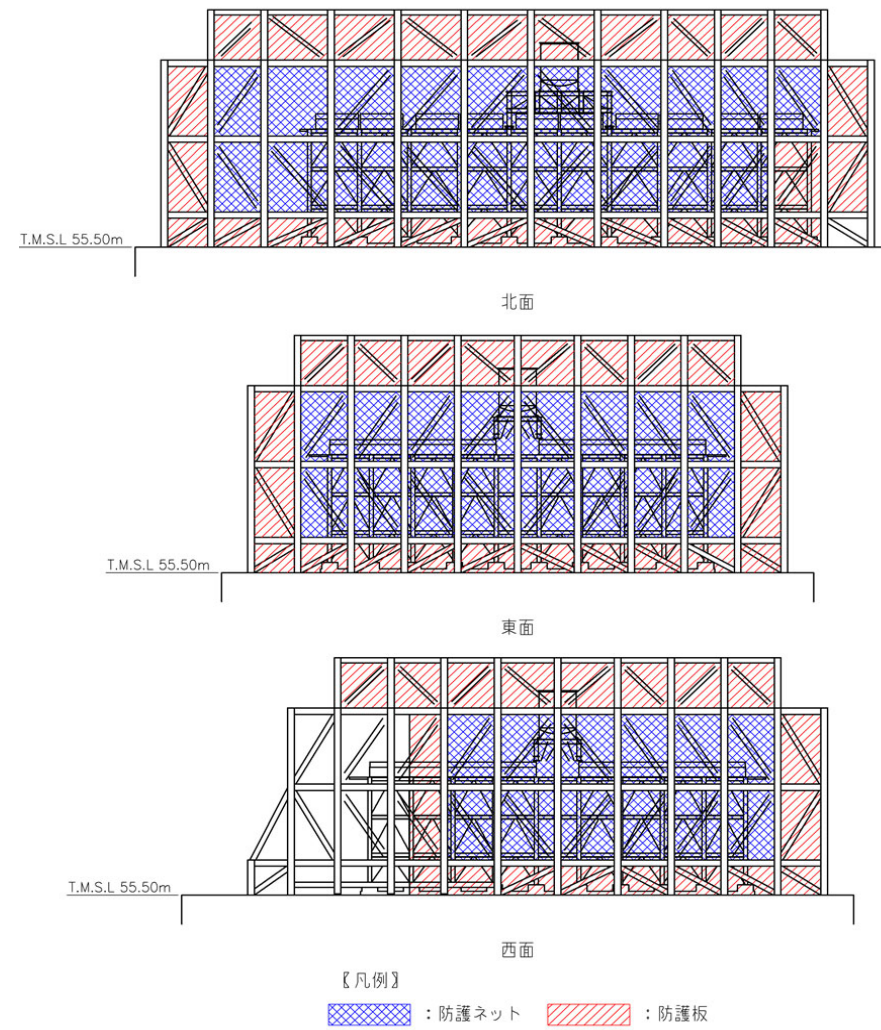
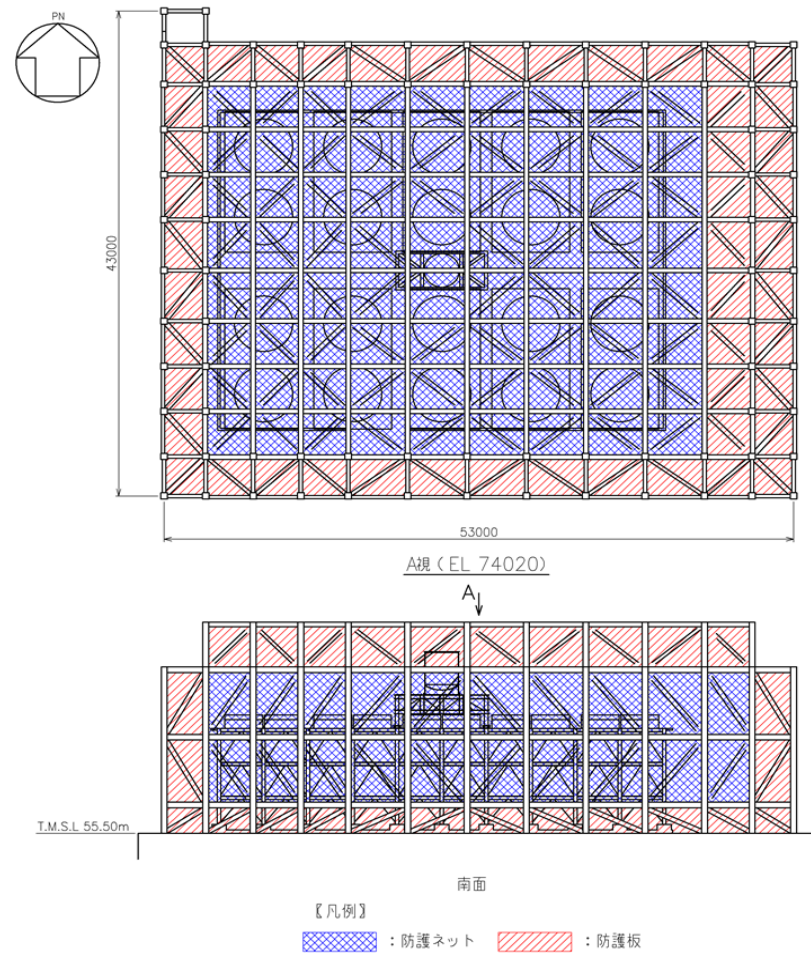


外部衝撃関係の要求で新規に
設置または改造した設備

竜巻防護対策設備

飛来物防護ネット（使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設用 安全冷却水系冷却塔A）

主要構造 防護ネット(鋼製枠), 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する
 支持構造 杭基礎を介して支持地盤である鷹架層に支持される構造とする

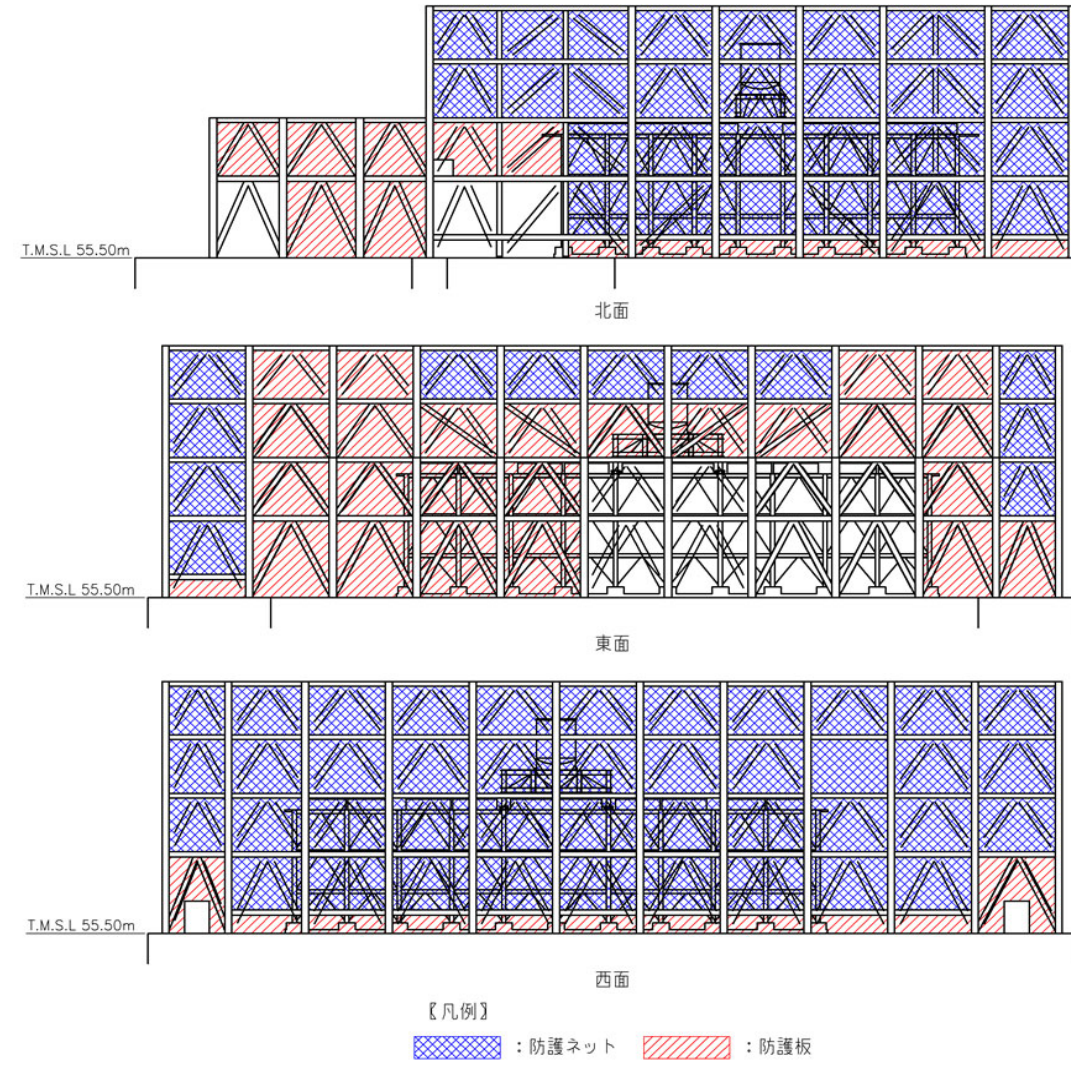
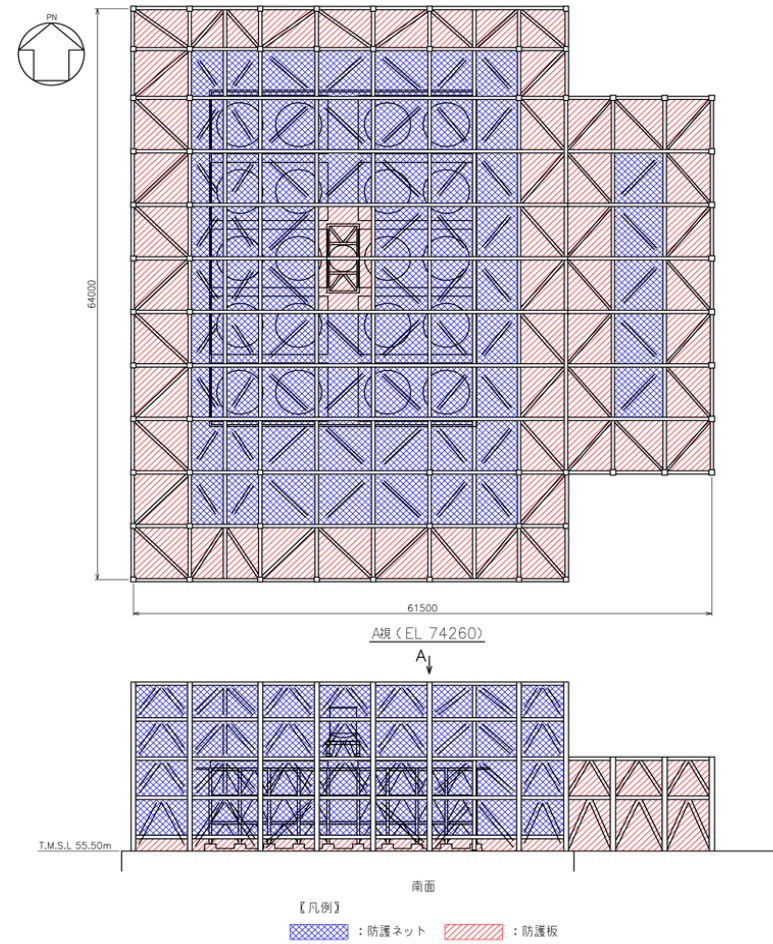


評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				備考		計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
防護ネット	○		○		○		電中研評価式に基づく評価であり、第1回申請にて審査済				
防護板	○		○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済。構造の違いにより取付けボルトの評価は不要。				
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異（解析モデルの違い）はあるが、解析の設定は第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異（解析モデルの違い）はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済	

竜巻防護対策設備

飛来物防護ネット（使用済燃料の受入れ施設及び貯蔵施設用 安全冷却水系冷却塔B）

主要構造 防護ネット（鋼製枠），防護板（鋼材）及び支持架構から構成する
 支持構造 杭基礎を介して支持地盤である鷹架層に支持される構造とする



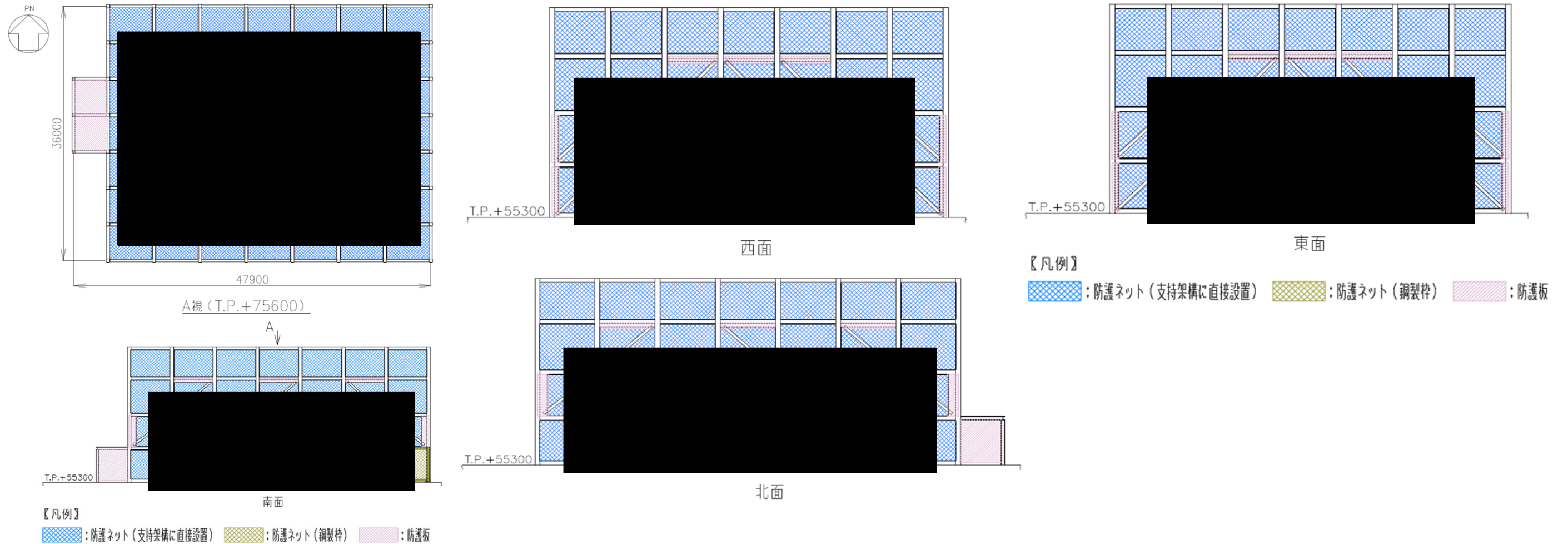
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				備考			
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析	審査実績	
防護ネット	○		○		○		電中研評価式に基づく評価であり、第1回申請にて審査済			
防護板	○		○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済。構造の違いにより取付けボルトの評価は不要。			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異（解析モデルの違い）はあるが、解析の設定は第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異（解析モデルの違い）はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済

竜巻防護対策設備

飛来物防護ネット(再処理設備本体用 安全冷却水系冷却塔A)

主要構造 防護ネット(支持架構に直接設置), 防護ネット(鋼製枠), 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する

支持構造 杭基礎を介して支持地盤である鷹架層に支持される構造とする。

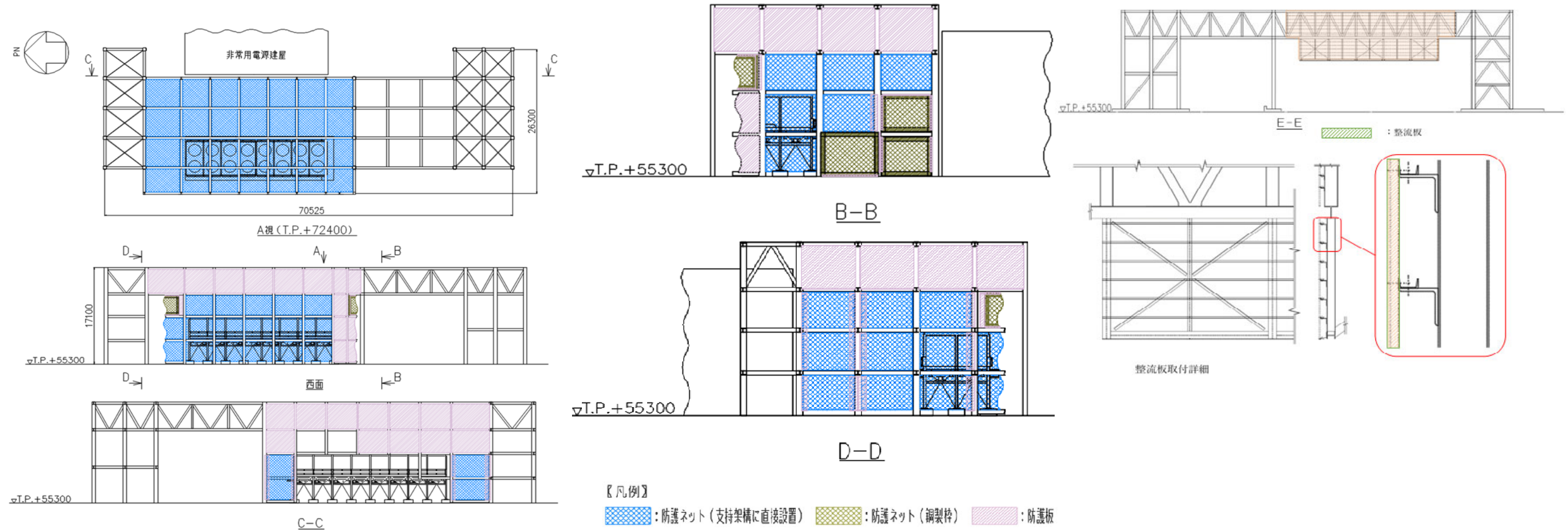


評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析	審査実績	
防護ネット	○		○		○		備考			
防護板	○	○	○				鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析となるが、第1回申請にて審査済			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請にて審査済	○	構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済	
整流板	○		○				再処理特有の構造となるが、評価内容は冷却塔の遮熱板と同様であり、第1回申請にて審査済			

竜巻防護対策設備

飛来物防護ネット(第2非常用ディーゼル発電機用 安全冷却水系冷却塔A)

主要構造 防護ネット(支持架構に直接設置), 防護ネット(鋼製枠), 防護板(鋼材), 整流板及び支持架構から構成する
 支持構造 基礎スラブと基礎梁を介して支持地盤であるマンメイドロックに支持される構造とする。



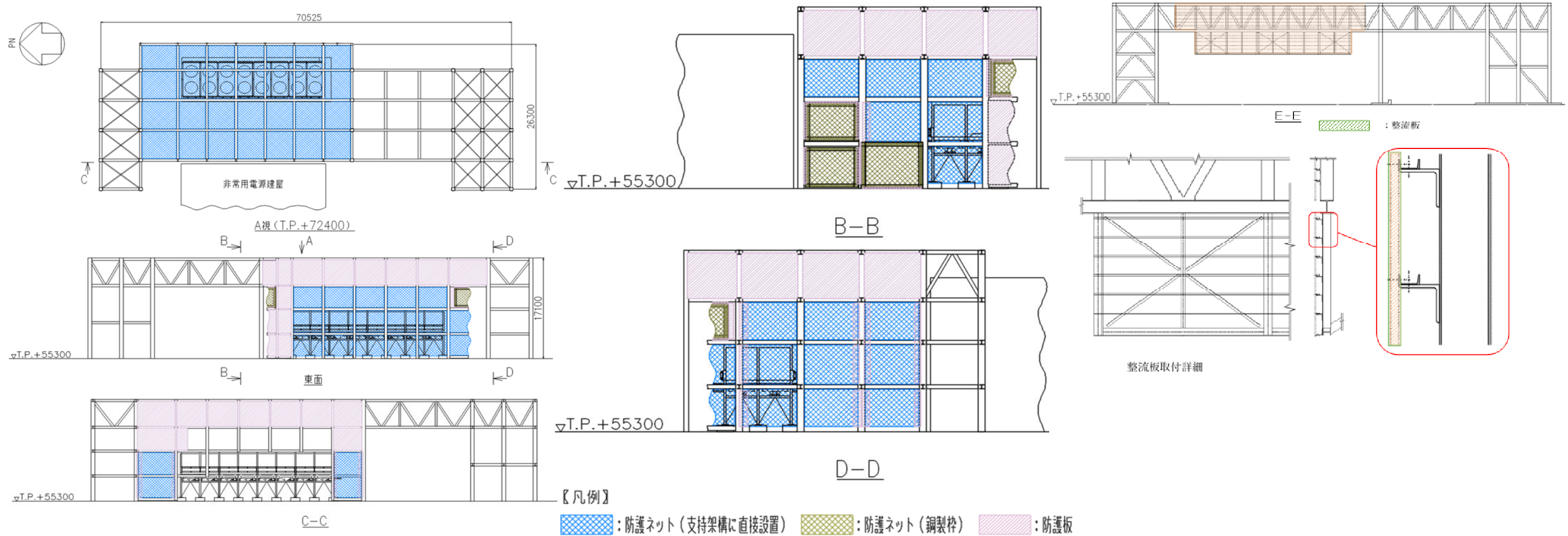
評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				備考		計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
防護ネット	○		○		○		電中研評価式に基づく評価であり、第1回申請にて審査済				
防護板	○		○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済。構造の違いにより取付けボルトの評価は不要。				
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済	

竜巻防護対策設備

飛来物防護ネット((第2非常用ディーゼル発電機用 安全冷却水系冷却塔B)

主要構造 防護ネット(支持架構に直接設置), 防護ネット(鋼製枠), 防護板(鋼材), 整流板及び支持架構から構成する

支持構造 基礎スラブと基礎梁を介して支持地盤であるマンメイドロックに支持される構造とする。



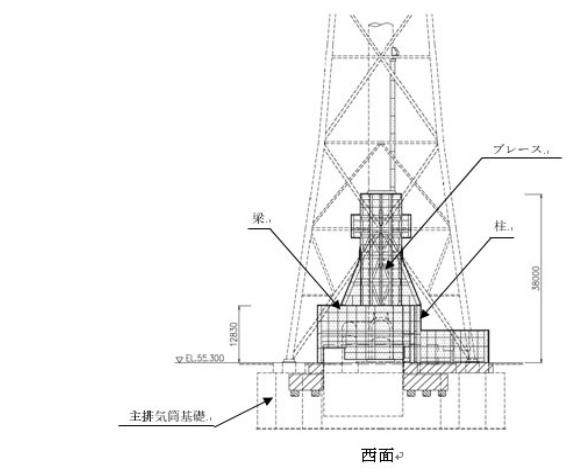
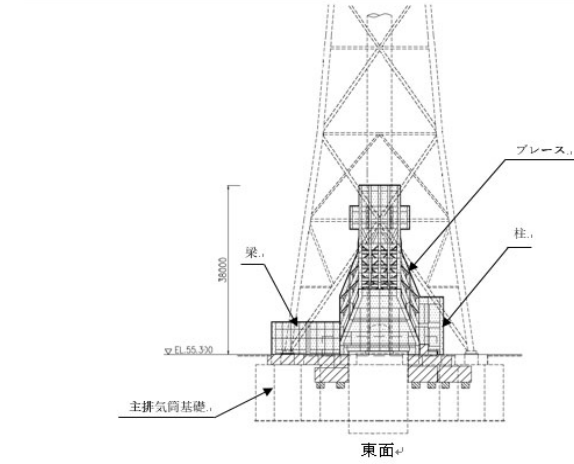
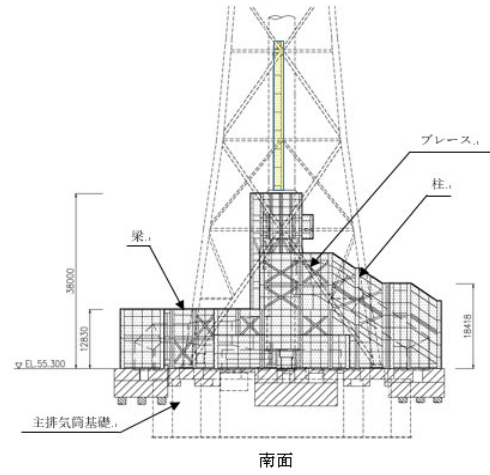
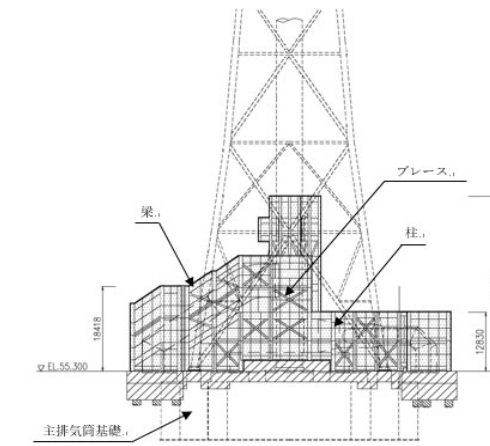
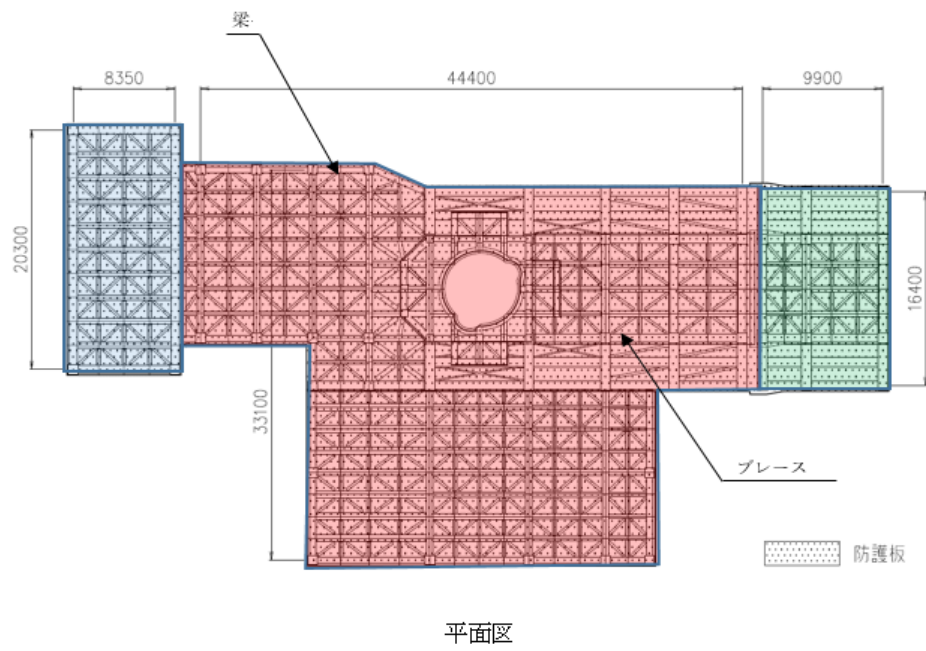
評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
防護ネット	○		○		○		電中研評価式に基づく評価であり、第1回申請にて審査済			
防護板	○	○	○				鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析となるが、第1回申請にて審査済			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済
整流板	○		○				再処理特有の構造となるが、評価内容は冷却塔の遮熱板と同様であり、第1回申請にて審査済			

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(主排気筒接続用 屋外配管及び屋外ダクト 主排気筒周り)

主要構造 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する

支持構造 基礎および杭を介して支持地盤である鷹架層に支持される構造とする。



防護板
基礎
杭
(単位: mm)

防護板
基礎
杭
(単位: mm)

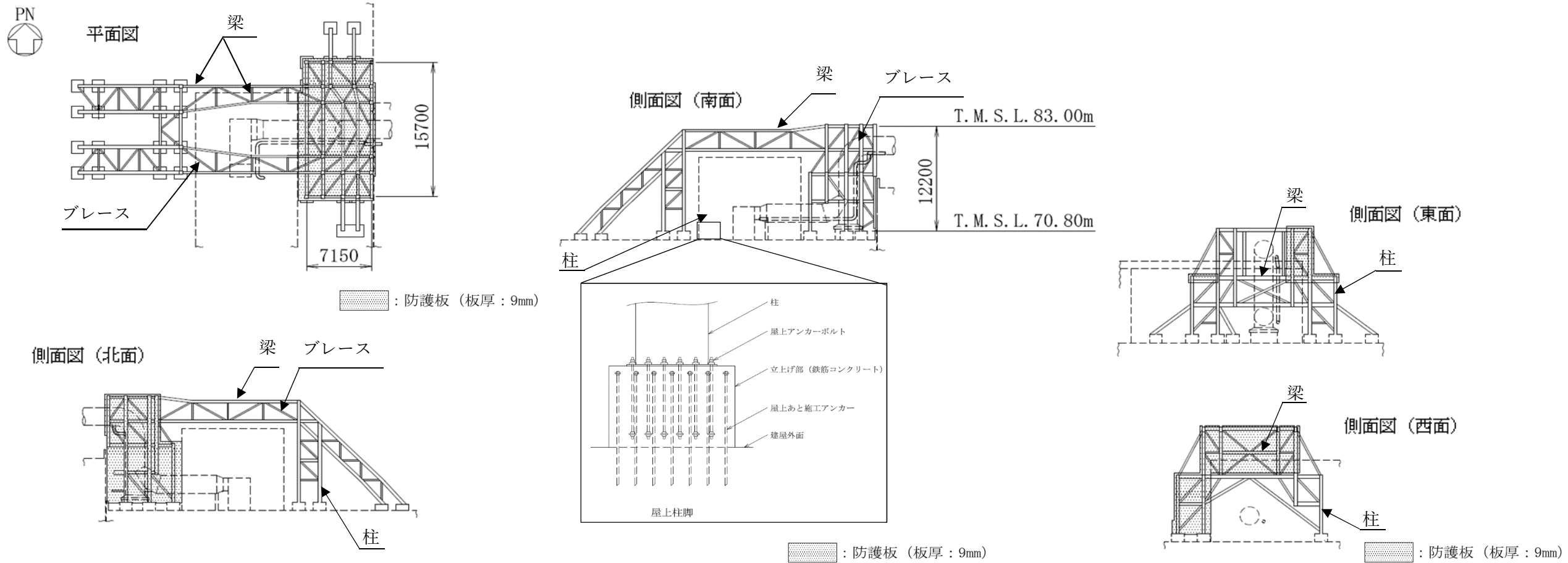
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				備考	計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし		手計算	解析	
防護板	○	○	○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析モデルは異なるが、解析の設定は第1回申請にて審査済			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(主排気筒接続用 屋外配管及び屋外ダクト 高レベル廃液ガラス固化建屋屋外)

主要構造 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する。

支持構造 柱脚部を介して建屋に支持される構造とする。



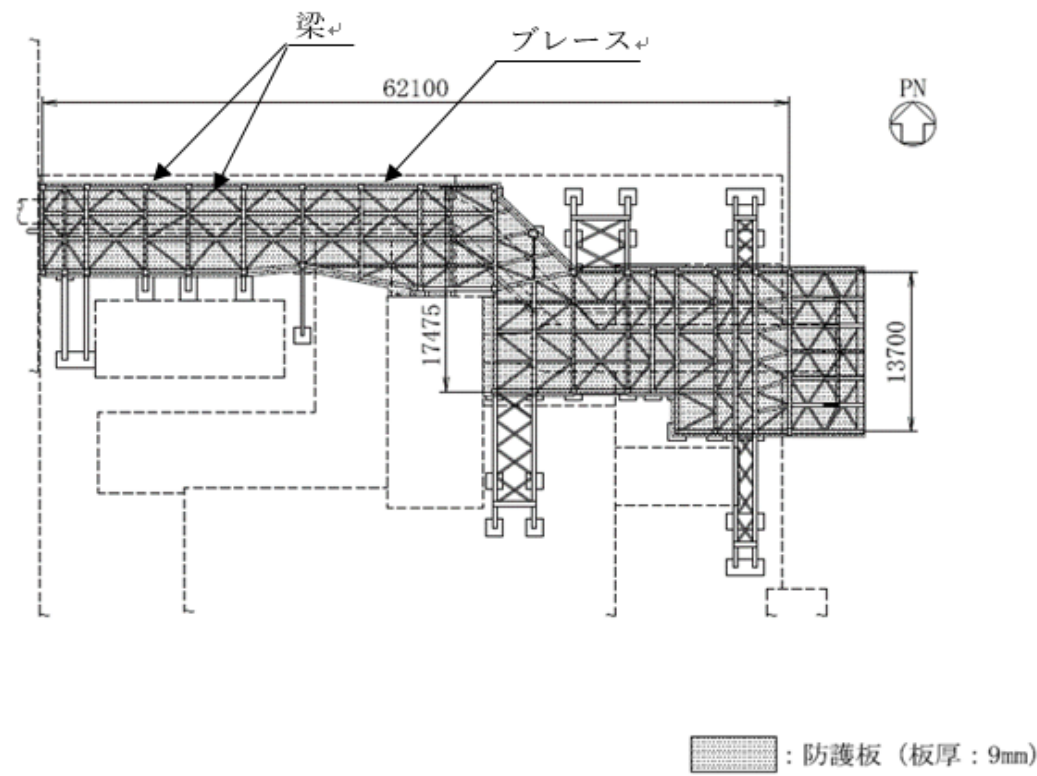
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析	審査実績	
防護板	○	○	○		○		備考 鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析モデルは異なるが、解析の設定は第1回申請にて審査済			

竜巻防護対策設備

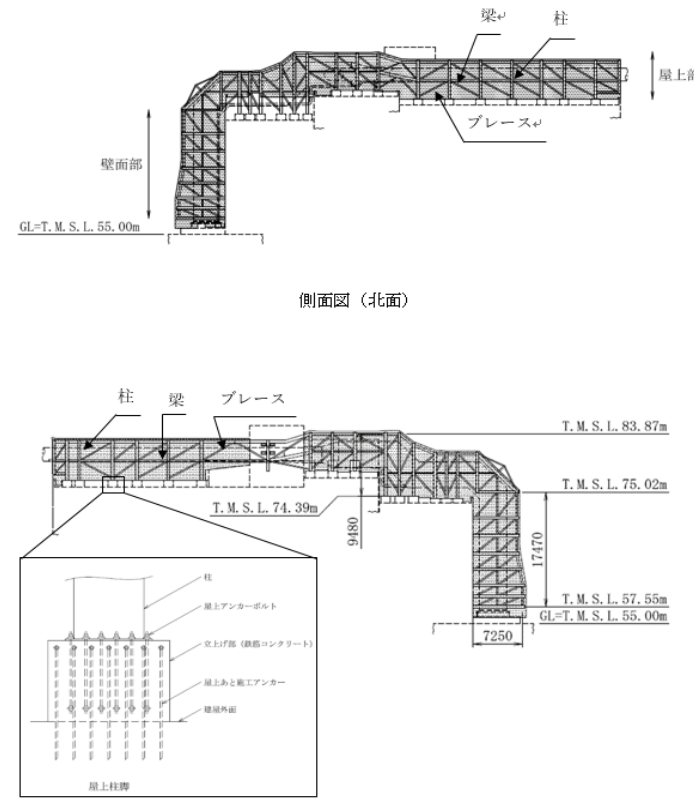
飛来物防護板(主排気筒接続用 屋外配管及び屋外ダクト 分離建屋屋外)

主要構造 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する

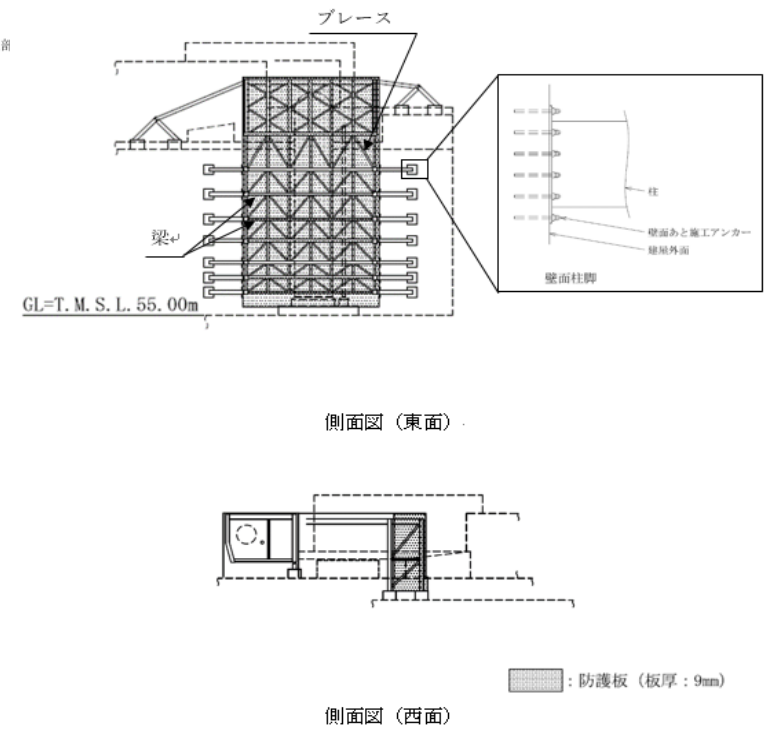
支持構造 柱脚部を介して建屋に支持される構造とする。



平面図



側面図(南面)



側面図(西面)

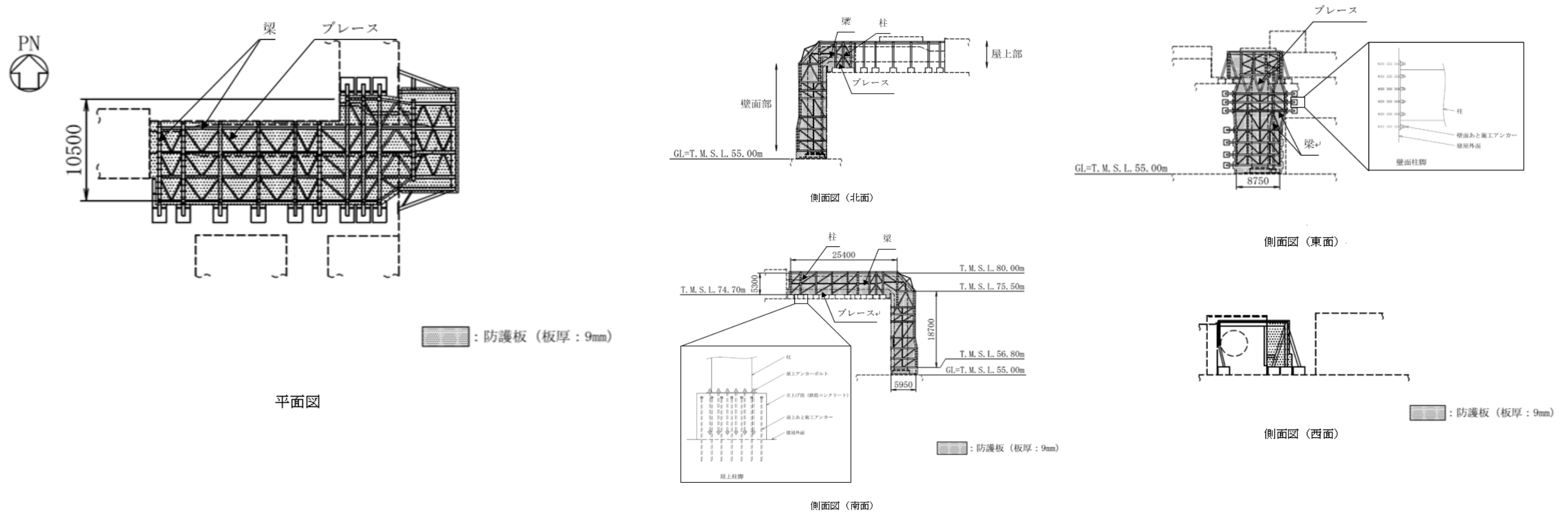
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
防護板	○	○	○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析モデルは異なるが、解析の設定は第1回申請にて審査済			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済	○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(主排気筒接続用 屋外配管及び屋外ダクト 精製建屋屋外)

主要構造 防護板(鋼材)及び支持架構から構成する

支持構造 柱脚部を介して建屋に支持される構造とする。



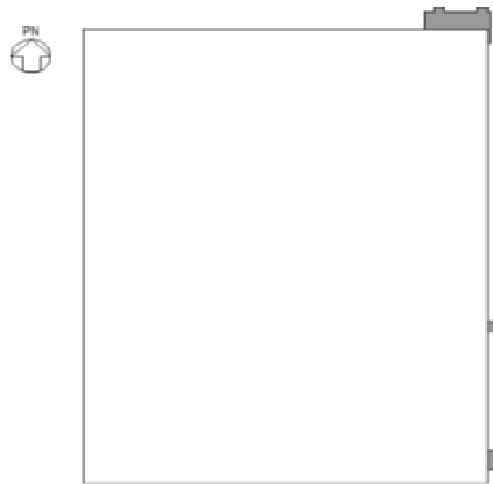
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
防護板	○	○	○		○		鋼板の貫通評価はBRL式であり、第1回申請にて審査済 取付けボルトは解析モデルは異なるが、解析の設定は第1回申請にて審査済			
支持架構		○	○		○		構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済		○	構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済

飛来物防護板

飛来物防護板(前処理建屋 安全蒸気系設置室)

主要構造 鉄筋コンクリート造である

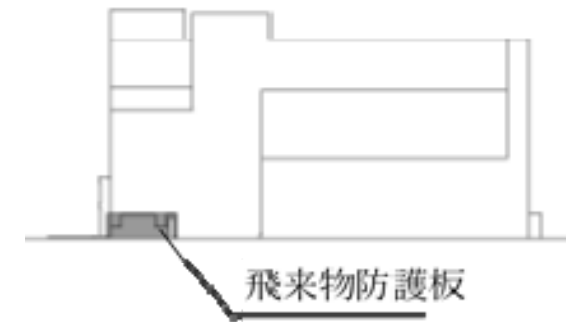
支持構造 前処理建屋の外壁にアンカー筋により直接支持され、アンカー筋及びコンクリートを介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする



(配置図 (55.39 m²~ 62.19m²))



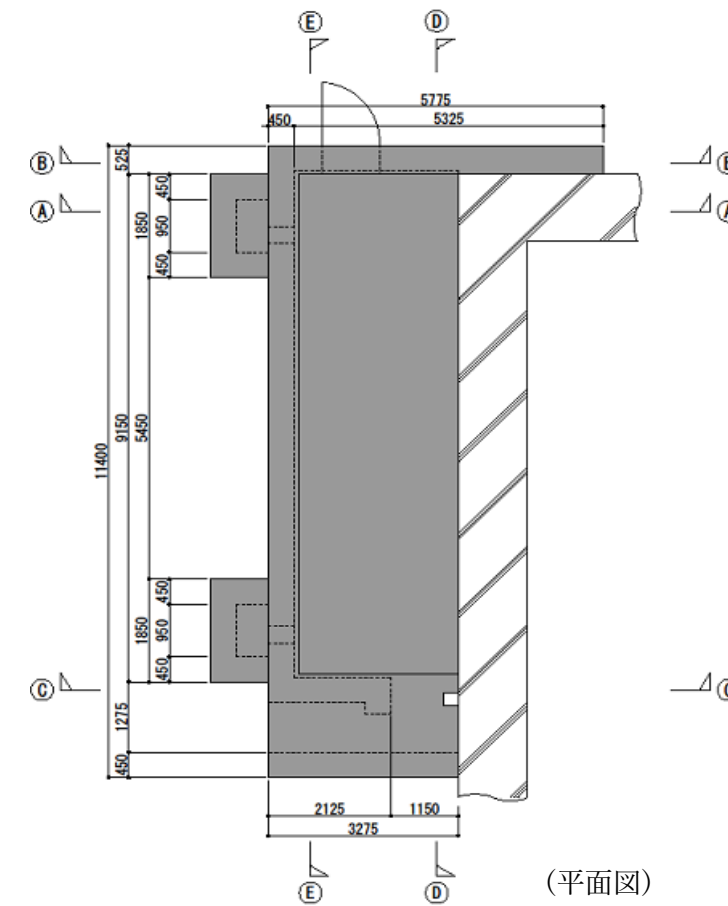
(西立面図)



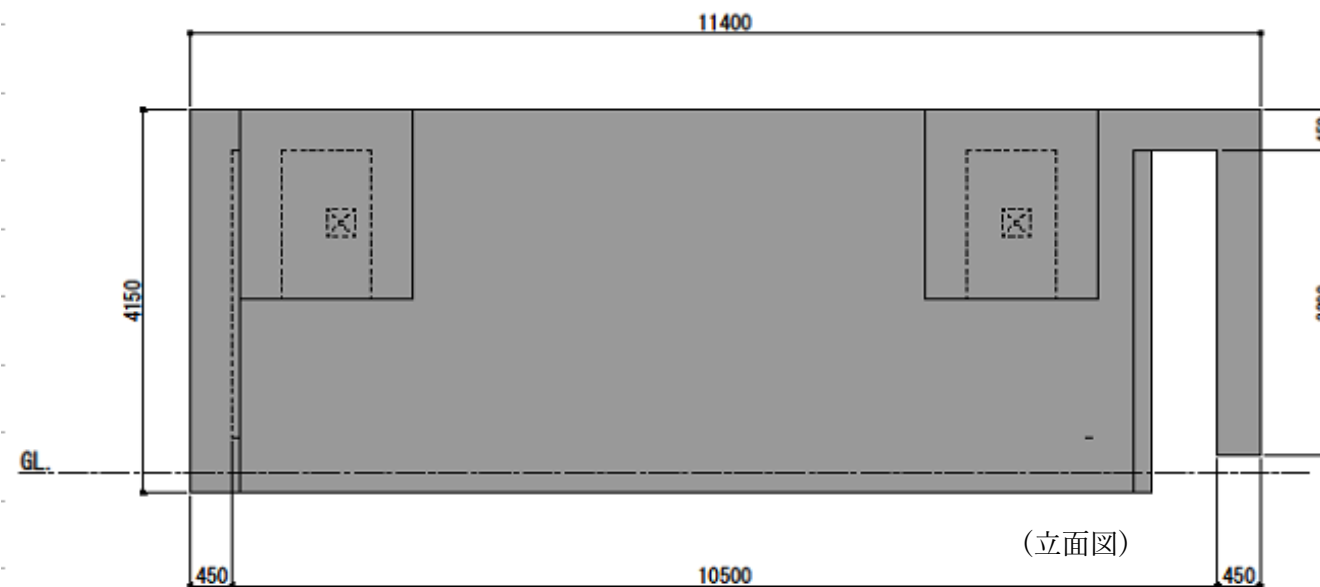
(北立面図)



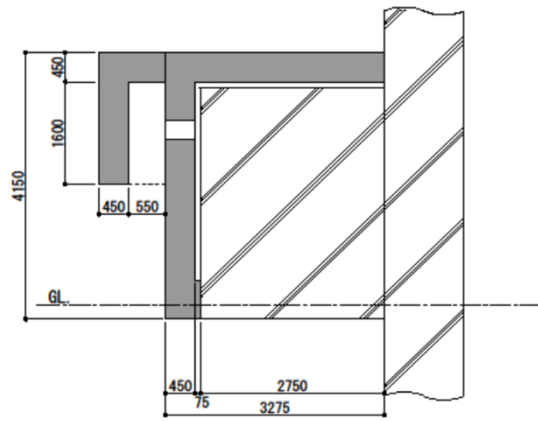
(東立面図)



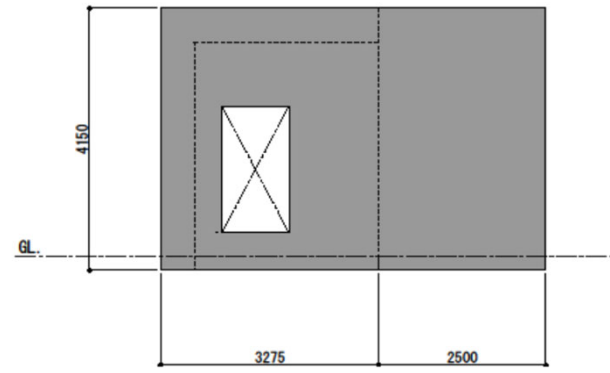
(平面図)



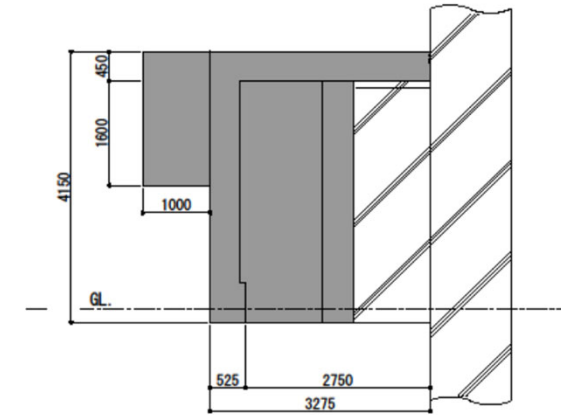
(立面図)



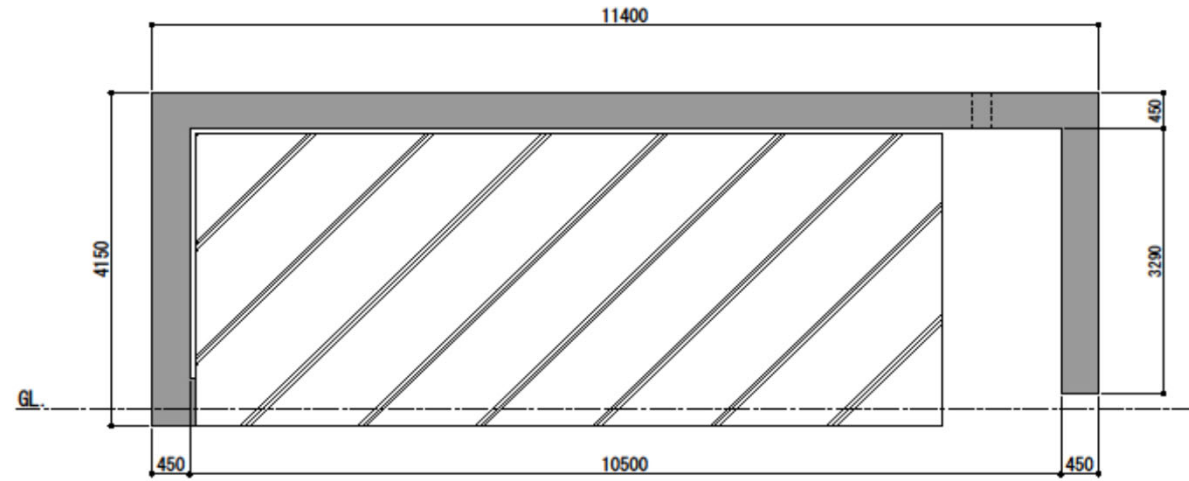
(断面図 (A-A断面))



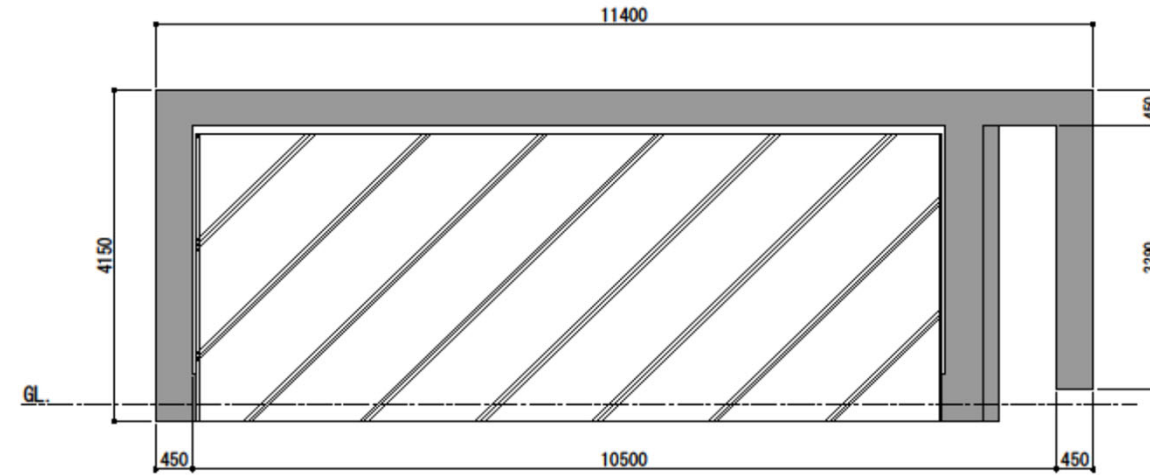
(断面図 (B-B断面))



(断面図 (C-C断面))



(断面図 (D-D断面))



(断面図 (E-E断面))

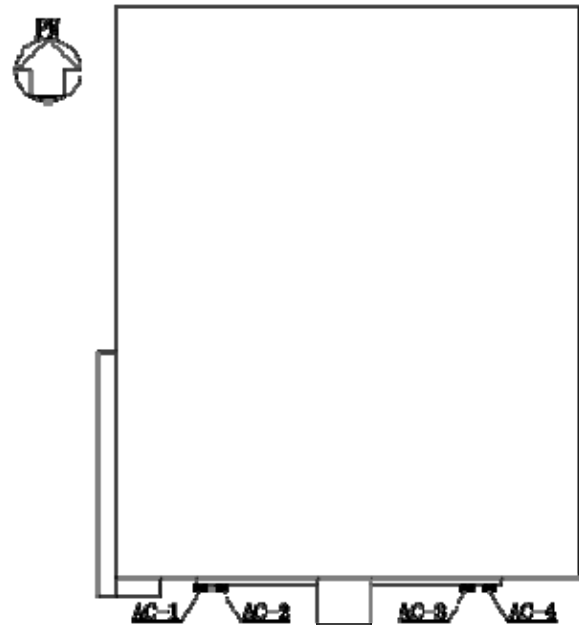
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
コンクリート板	○	○					Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(柏崎)にて審査実績あり。			

飛来物防護板

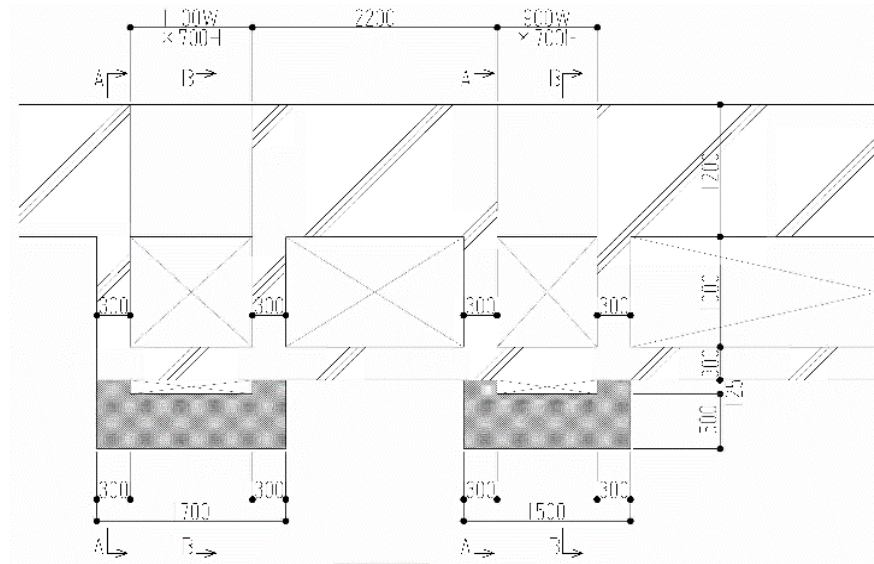
飛来物防護板(精製建屋 非常用所内電源系統及び計測制御系統施設設置室 A, B)

主要構造 鉄筋コンクリート造である

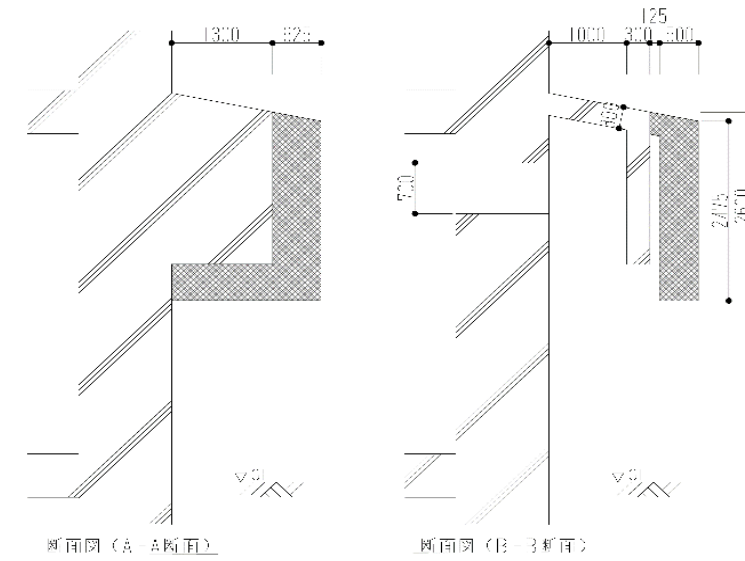
支持構造 精製建屋の外壁にアンカー筋により直接支持され、アンカー筋及びコンクリートを介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする。



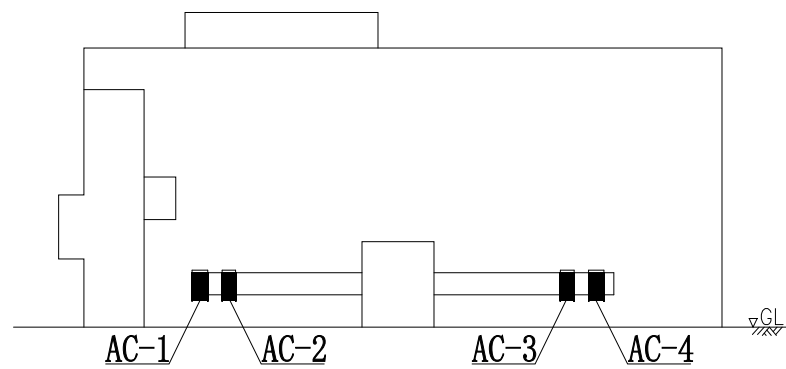
(配置図)



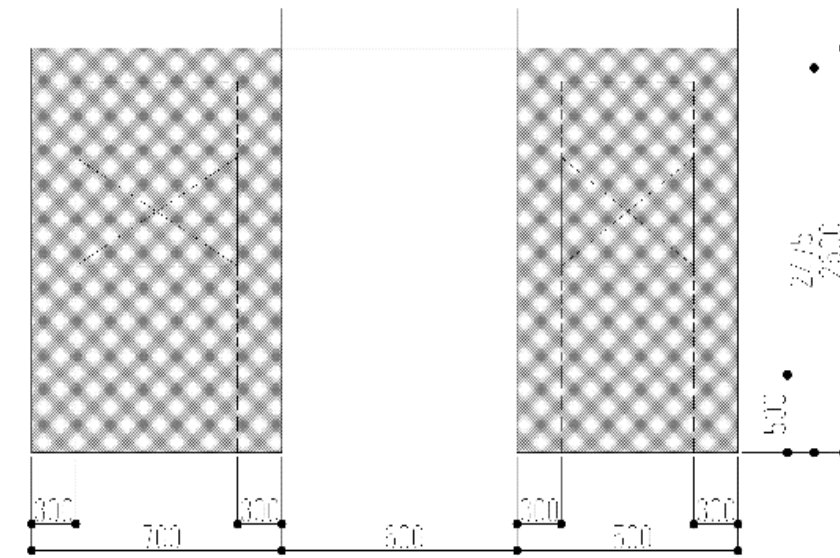
(平面図)



(断面図)



(南立面図)



(立面図)

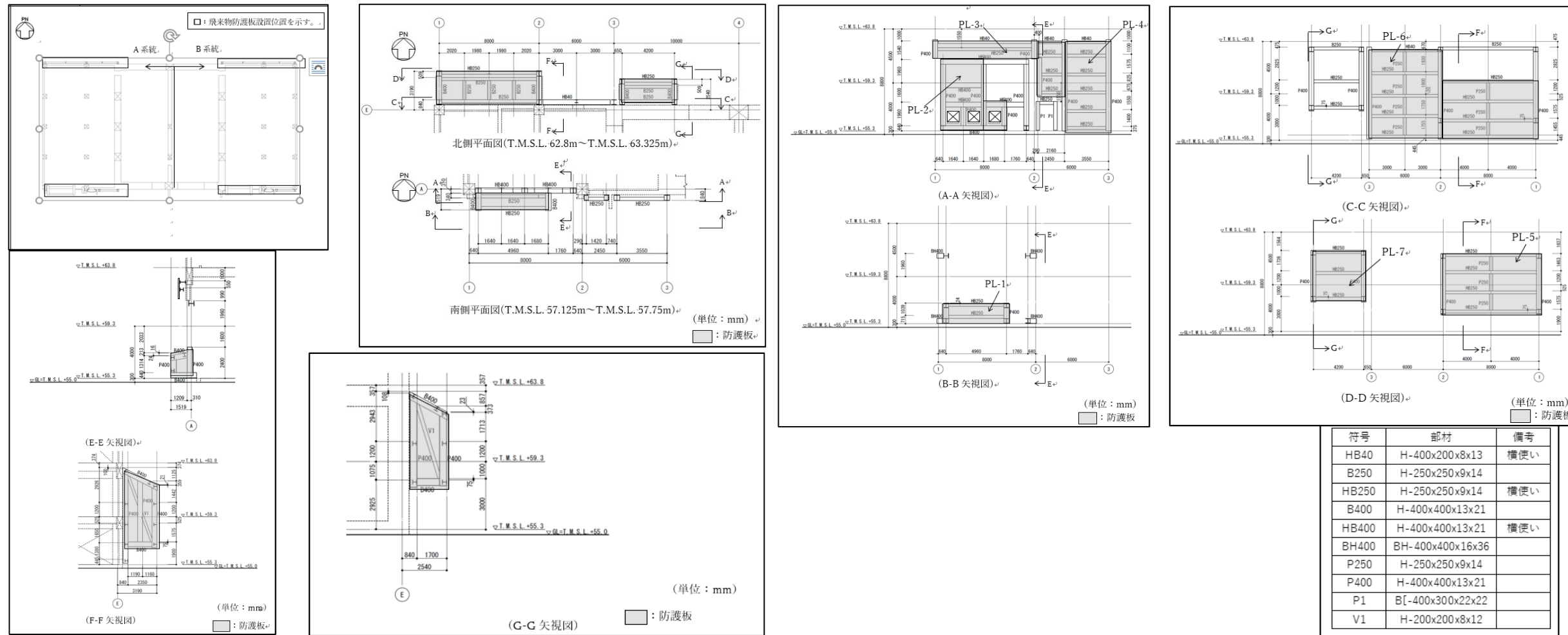
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
コンクリート板 (フード)	○	○					Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。 飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(柏崎)にて審査実績あり。			

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(非常用電源建屋 第2非常用ディーゼル発電機及び非常用所内電源系統設置室 A, B 北, 南ブロック

主要構造 鋼構造である。

支持構造 非常用電源建屋の外壁にアンカー筋により支持され、アンカー筋を介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする。



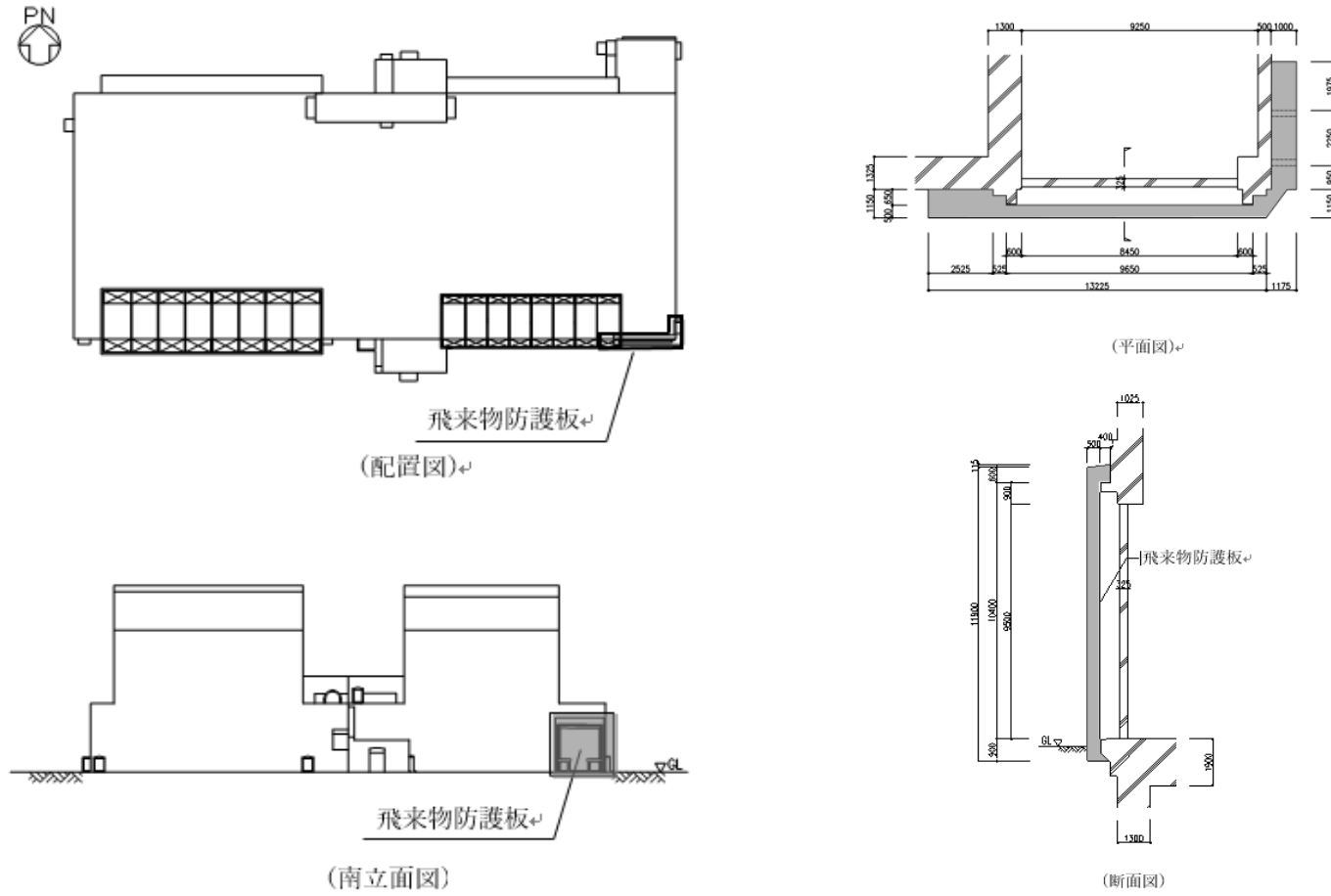
評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算	解析	審査実績
防護板(外壁、フード)	○	○					BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。			

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(第1 ガラス固化体貯蔵建屋 床面走行クレーン 遮蔽容器設置室)

主要構造 鉄筋コンクリート造である。

支持構造 第1 ガラス固化体貯蔵建屋の外壁にアンカー筋により直接支持され、アンカー筋及びコンクリートを介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする。



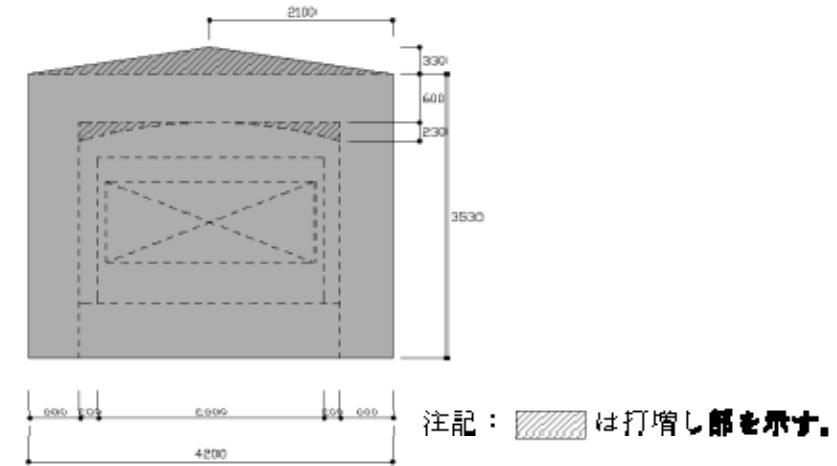
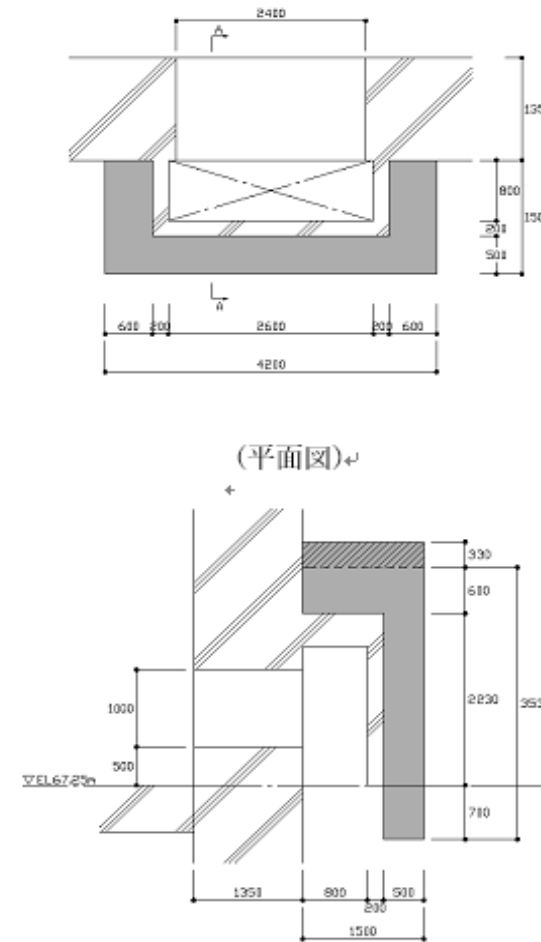
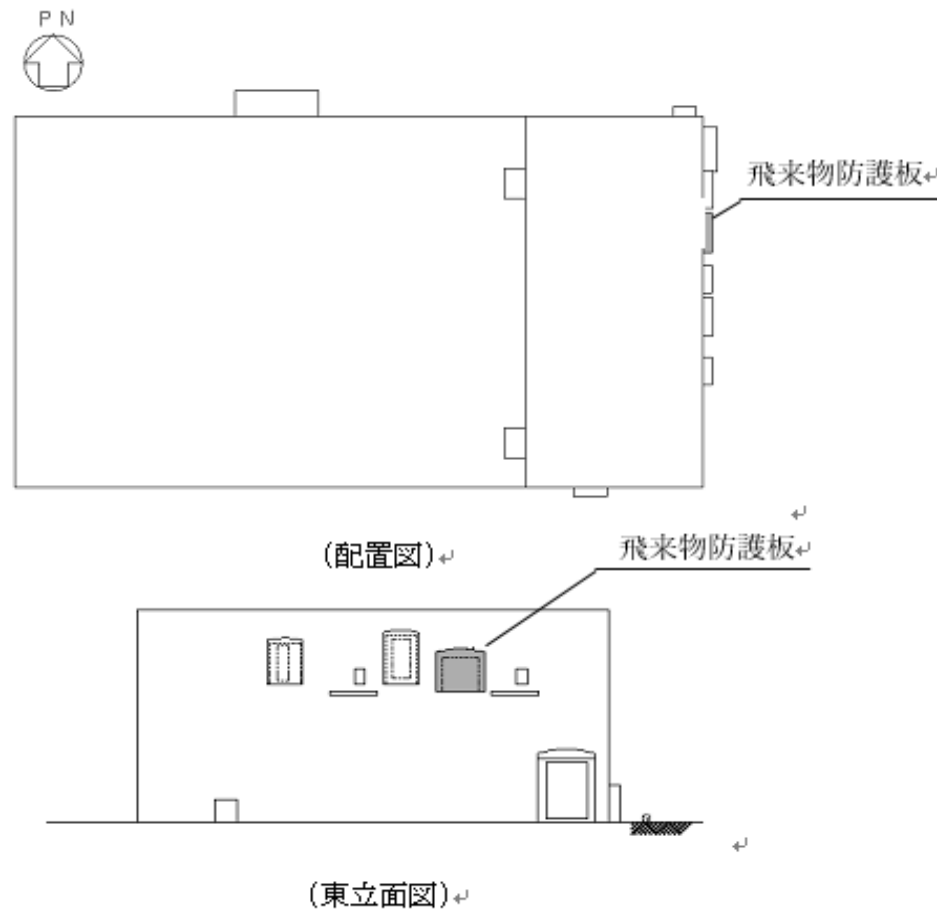
評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				備考		計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
コンクリート板 (フード)	○	○					Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第4回申請にて審査済み。 飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(柏崎)にて審査実績あり。				

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(制御建屋 中央制御室換気設備設置室)

主要構造 鉄筋コンクリート造である。

支持構造 制御建屋の外壁にアンカー筋により直接支持され、アンカー筋及びコンクリートを介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする。



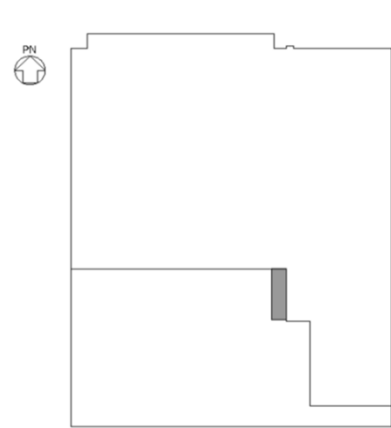
評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
コンクリート板 (フード)	○	○					Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。 飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(柏崎)にて審査実績あり。			

竜巻防護対策設備

飛来物防護板(冷却塔接続 屋外設備)

主要構造 鉄筋コンクリート造である。

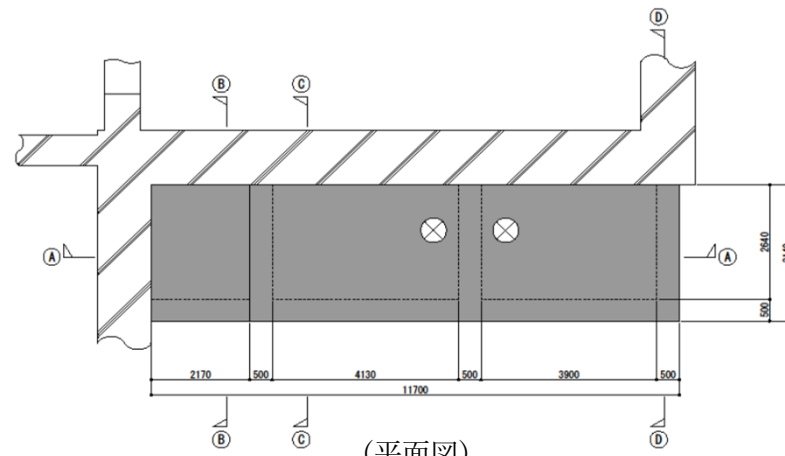
支持構造 前処理建屋の外壁にアンカー筋により直接支持され、アンカー筋及びコンクリートを介して荷重を建屋外壁に伝達する構造とする。



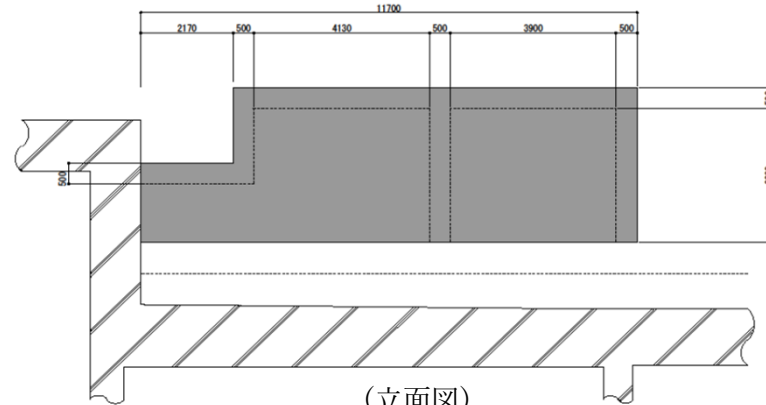
(配置図 (74.09m~80.04m))



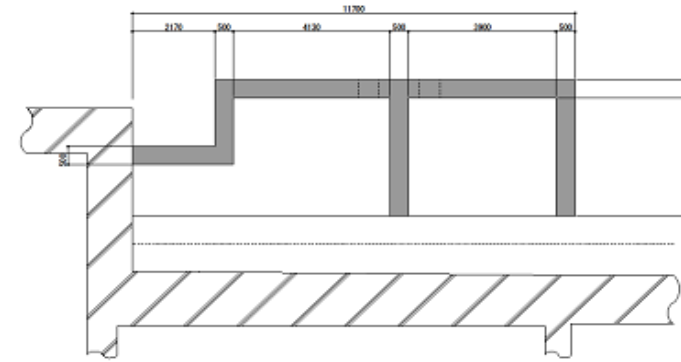
(西立面図)



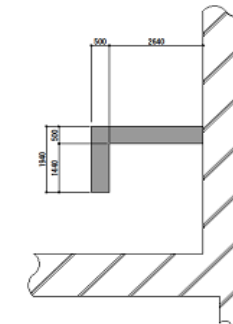
(平面図)



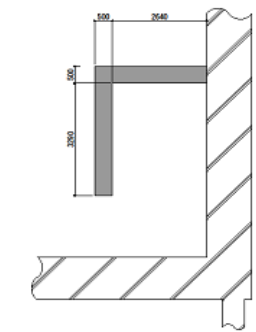
(立面図)



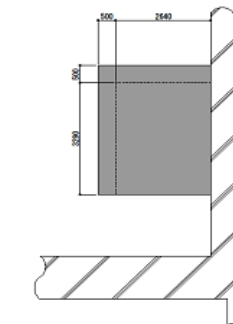
(断面図 (A-A 断面))



(断面図 (B-B 断面))



(断面図 (C-C 断面))



(断面図 (D-D 断面))

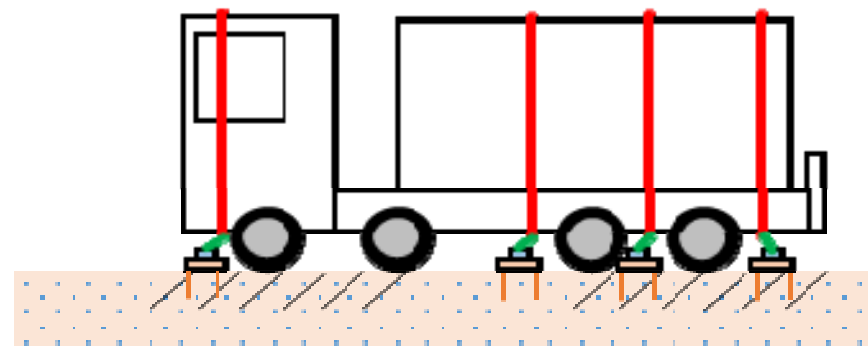
評価対処部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績		
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
コンクリート板 (フード)	○	○					備考				
							Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。 飛来物衝突時における解析を用いた変形評価については、発電炉(柏崎)にて審査実績あり。				

固縛装置（余長あり）

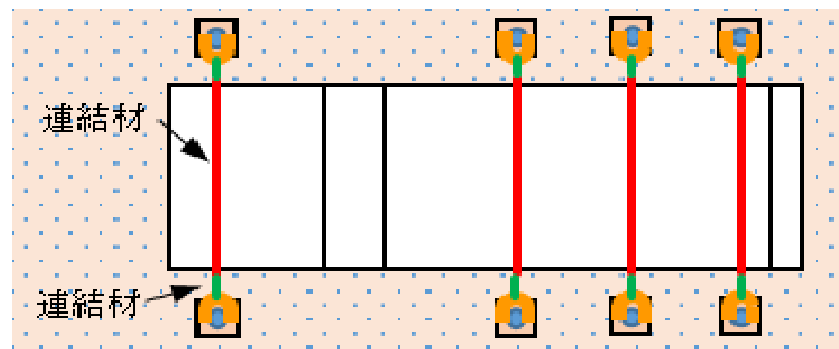
主要構造 車両型の固縛対象設備

支持構造

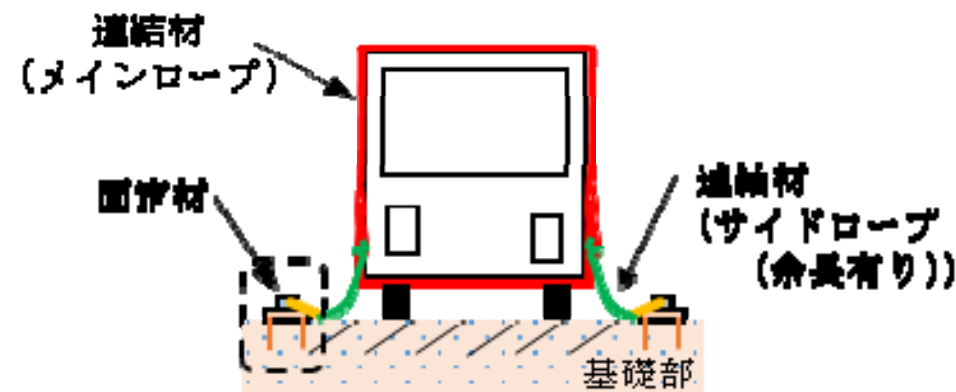
固縛装置は、連結材、固定材及び基礎部から構成し、連結材（メインロープ）を車両型固縛対象設備に巻付け、連結材（サイドロープ）によって固定材（フレノ・リンクボルト及びアンカープレート）に固定することで車両を固縛する。
 車両型の固縛対象設備については、連結材（サイドロープ）に余長を持たせて固縛することにより、耐震設計に影響のない設計とする。
 車両型の固縛対象設備は、重大事故等発生時の初動対応時間を確保するために、固縛装置の設置箇所数を可能な限り少なくすることで、機動性を確保する設計とする。



(側面図)



(上面図)



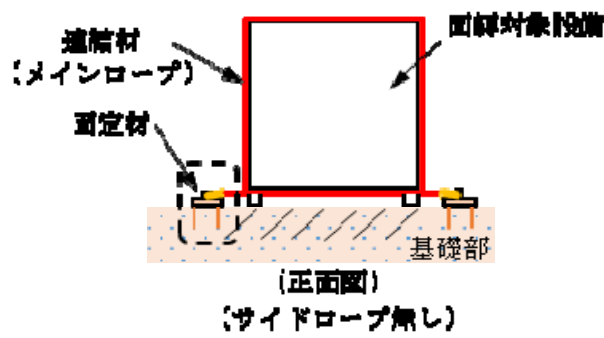
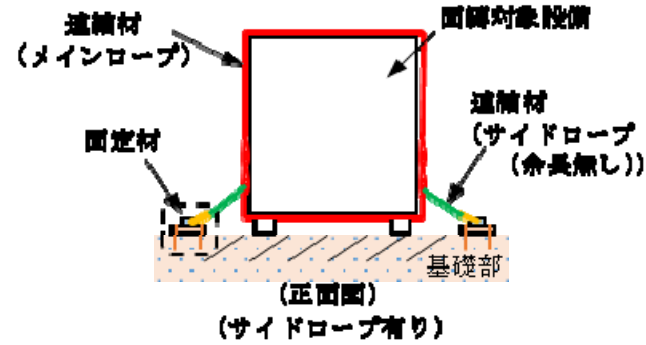
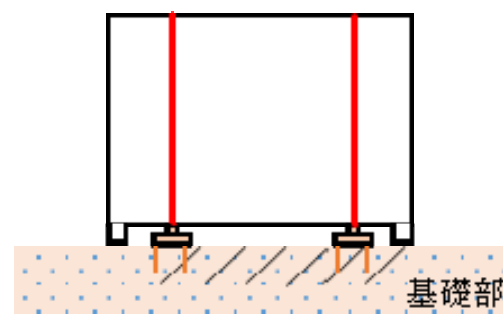
(正面図)

評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
高強度繊維ロープ	○				○		余長あり：発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
フレノリンクボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
アンカープレート	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
頭付アンカーボルト	○				○		発電炉（大飯）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
接着系アンカーボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			

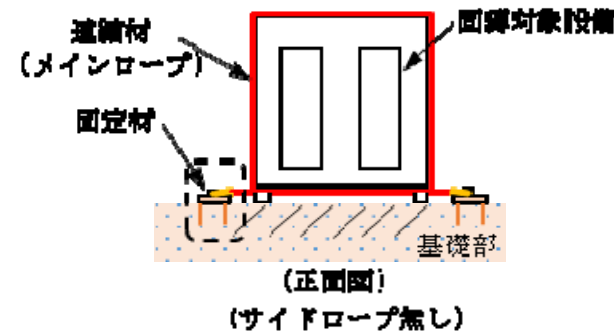
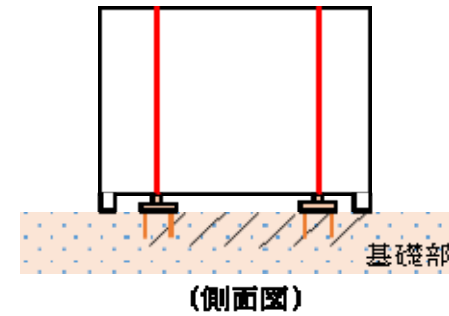
固縛装置（余長なし）

主要構造 車両型以外の固縛対象設備

支持構造 固縛装置は、連結材、固定材及び基礎部から構成し、連結材（メインロープ）を車両型以外の固縛対象設備に巻付け、連結材（メインロープ又はサイドロープ）によって固定材（フレノ・リンクボルト、シャックル及びアンカープレート）に固定することで固縛対象設備を固縛する。連結材には、余長を設けない設計とする。
また、固定材を共用し複数台の固縛を行うものもある。
固縛対象設備は、重大事故等発生時の初動対応時間を確保するために、固縛装置の設置箇所数を可能な限り少なくすることで、機動性を確保する設計とする。



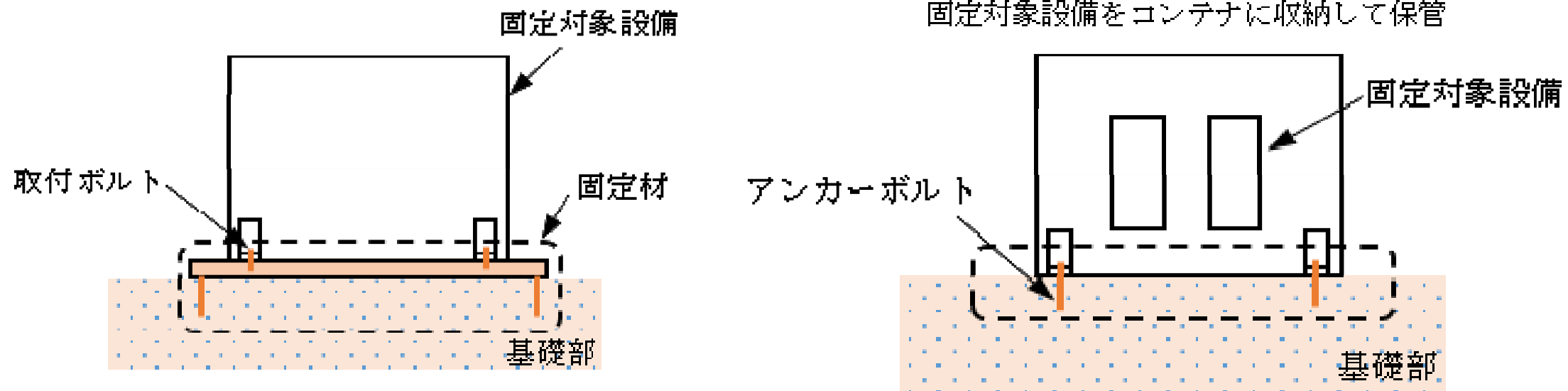
固縛対象設備をコンテナに収納して保管
(コンテナを固縛する場合)



評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
高強度繊維ロープ	○				○		余長あり：発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。 余長なし：余長ありと評価の考え方は同じ（固定材との角度をロープの伸びから算出）であり、余長ありの審査に包絡される。 ただし、メインロープ一本で固縛している設備があり、本構造は発電炉ではない。			
フレノリンクボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
アンカープレート	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
シャックル	○				○		発電炉（大飯）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
頭付アンカーボルト	○				○		発電炉（大飯）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
接着系アンカーボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			

固定装置

主要構造 車両型以外の固定対象設備
 支持構造 固定装置は、固定材及び基礎部から構成し、取付ボルトによって固定材(ベースプレート)に固定する。
 固定装置は、基礎部から構成し、アンカーボルトによって基礎部に固定する。

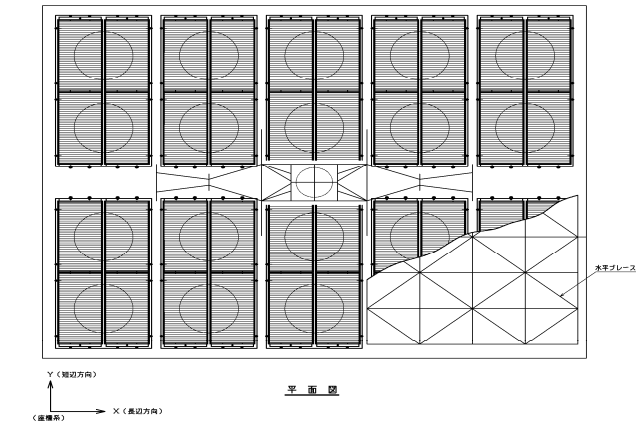


評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
取付ボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
ベースプレート	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
頭付アンカーボルト	○				○		発電炉（大飯）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			
接着系アンカーボルト	○				○		発電炉（東二）と同様の評価手法であり、発電炉で審査実績あり。			

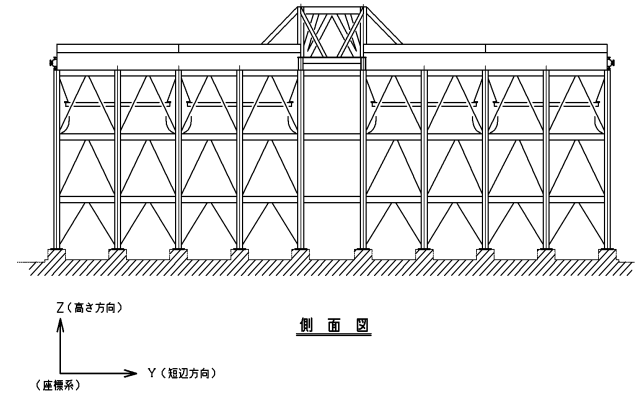
冷却塔

安全冷却水系冷却塔A, B

主要構造 鋼製の支持架構に管束，ファン駆動部等を固定する構造とする。
 支持構造 コンクリート基礎に基礎ボルトで固定する。

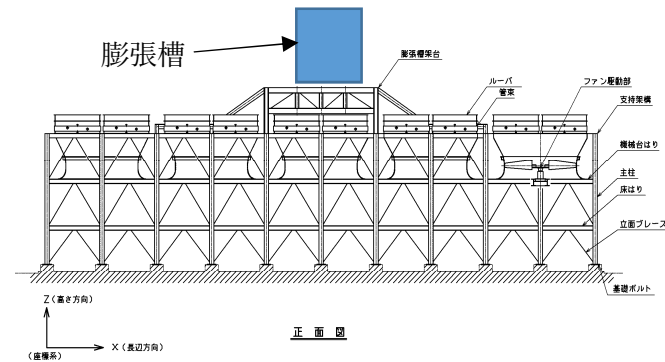


(a) 上面図

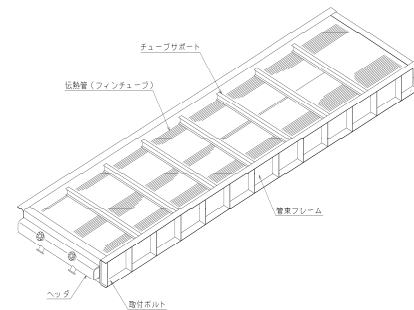


(c) 側面図(短辺方向)

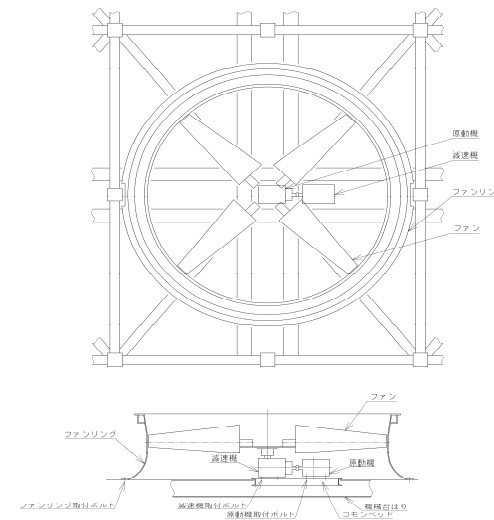
安全冷却水系冷却塔A, B 概要図



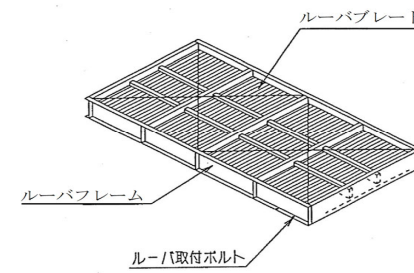
(b) 側面図(長辺方向)



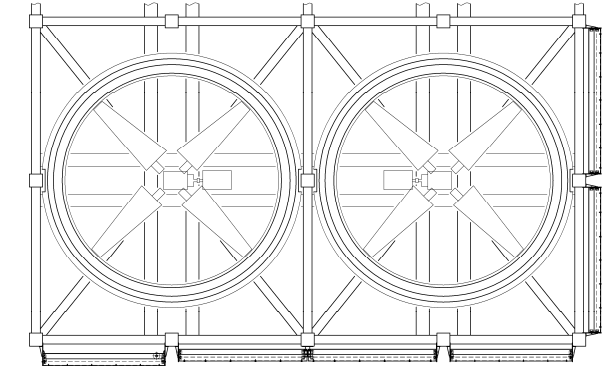
管束概要図



ファン駆動部概要図



ルーバ概要図



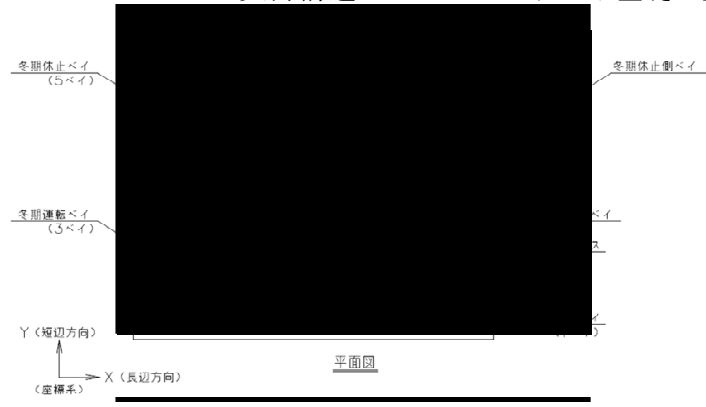
遮熱板概要図

評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
ルーバ	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。	○		構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様である。
管束	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			
支持架構		○	○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、解析モデルは耐震評価と共通である。		○	構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済
遮熱板	○		○	○			構造の違い(受圧面積の作用方向の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			

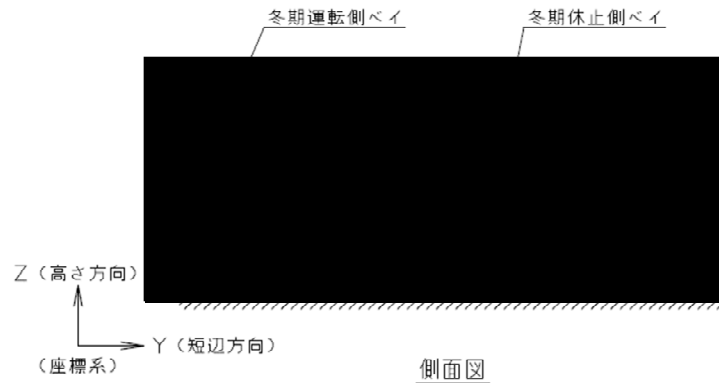
冷却塔

安全冷却水A, B冷却塔

主要構造 鋼製の支持架構に管束, ファン駆動部等を固定する構造とする。
 支持構造 コンクリート基礎に基礎ボルトで固定する。

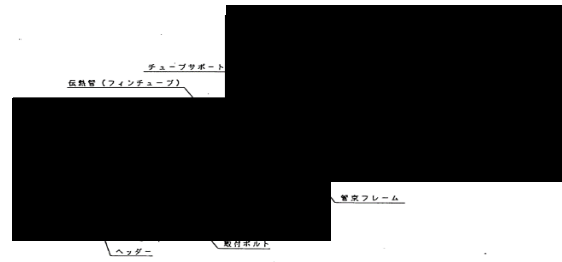


(a) 上面図

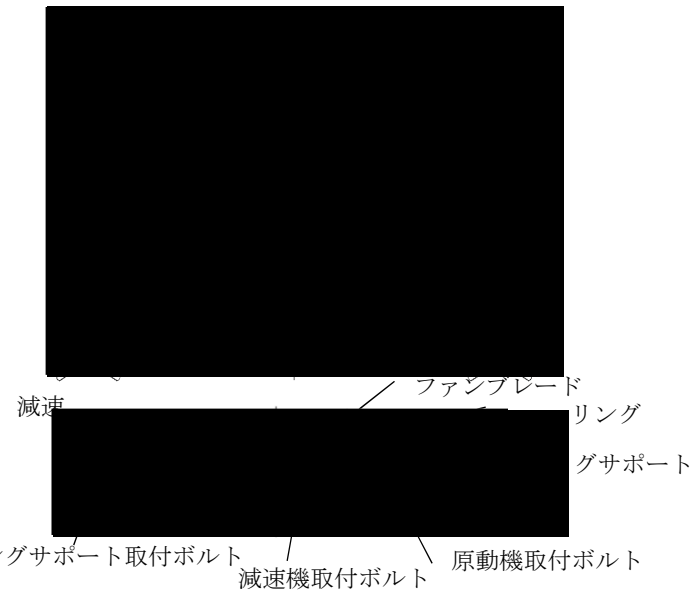


(c) 側面図(短辺方向)

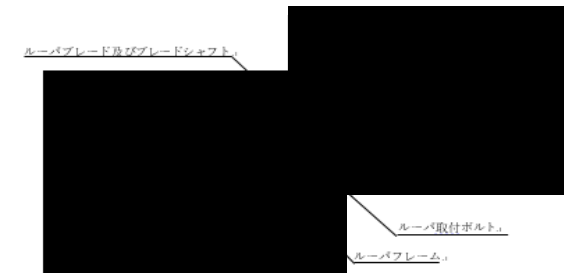
安全冷却水A, B冷却塔 概要図



管束概要図



ファン駆動部概要図



ルーバ概要図



遮熱板概要図



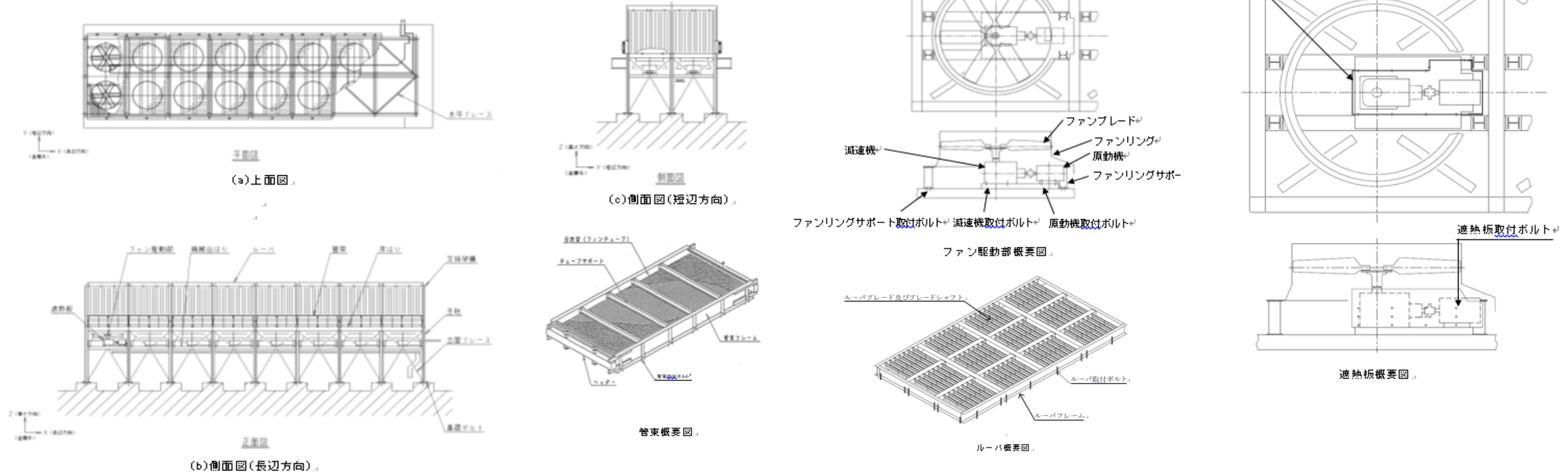
(b) 側面図(長辺方向)

評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
ルーバ	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。	○		構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様である。
管束	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			
ファン駆動部	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			
支持架構		○	○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、解析モデルは耐震評価と共通である。		○	構造の違いに基づく差異(解析モデルの違い)はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済
遮熱板	○		○	○			構造の違い(受圧面積の違い)はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			

冷却塔

冷却塔A, B

主要構造 鋼製の支持架構に管束，ファン駆動部等を固定する構造とする。
 支持構造 コンクリート基礎に基礎ボルトで固定する。



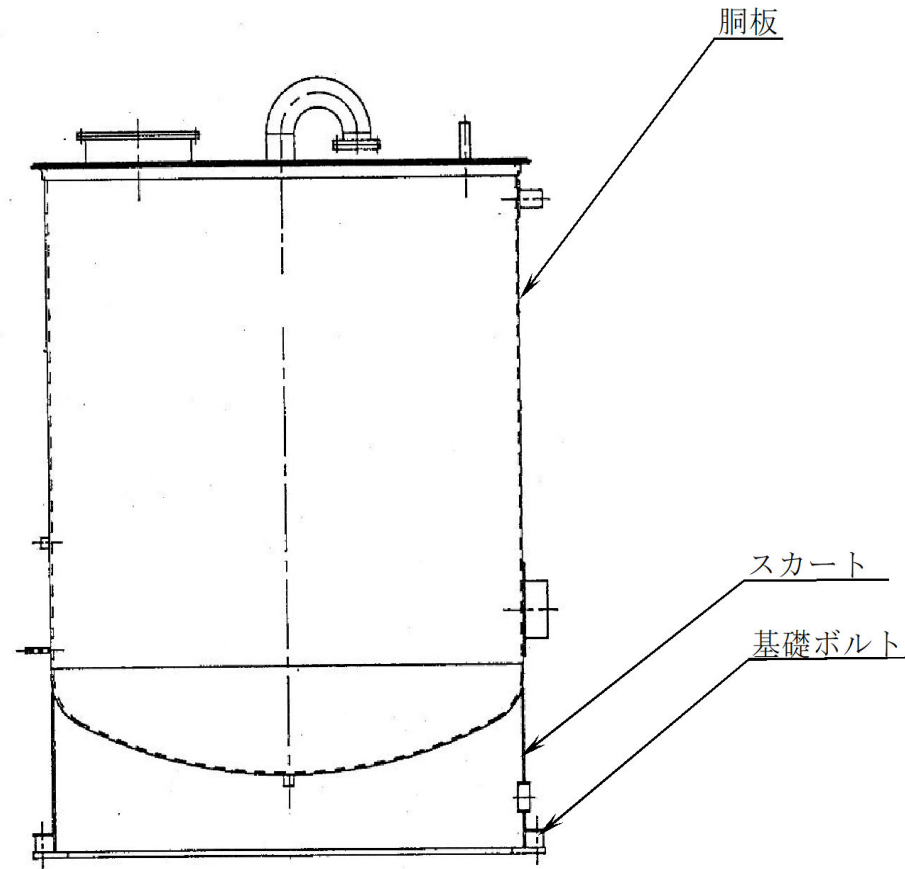
評価対処部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
ルーバ	○		○	○			構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA5Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。	○		構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様である。
管束	○		○	○			構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA6Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			
ファン駆動部	○		○	○			構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA7Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			
支持架構		○	○	○			構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様であり、解析モデルは耐震評価と共通である。		○	構造の違いに基づく差異（解析モデルの違い）はあるが、解析の設定は第1回申請の冷却塔の支持架構と同様であり、第1回申請にて審査済
遮熱板	○		○	○			構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA7Bと同様であり、機器取付ボルトの評価内容は耐震評価と同様である。			

膨張槽

安全冷却水系膨張槽A, B

主要構造 鋼製の板で構成する

支持構造 安全冷却水系膨張槽A, Bは支持構造物により, 冷却塔本体の支持架構から支持する

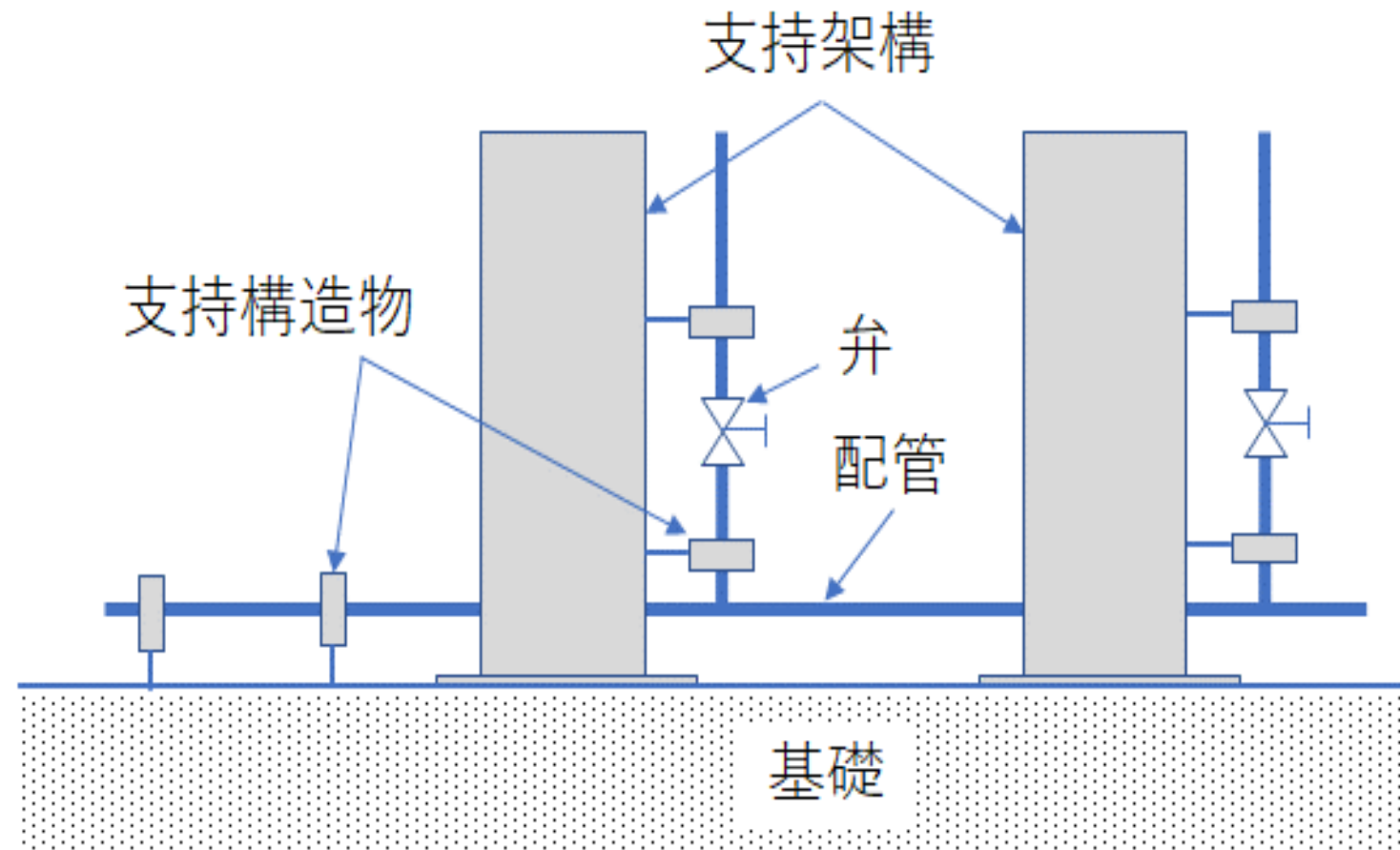


評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				備考		計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
胴板	○			○	○		JEAGに基づくスカート支持たて置円筒容器の評価式であり、耐震評価に審査実績あり。				
スカート	○			○	○		JEAGに基づくスカート支持たて置円筒容器の評価式であり、耐震評価に審査実績あり。				
基礎ボルト	○			○	○		JEAGに基づくスカート支持たて置円筒容器の評価式であり、耐震評価に審査実績あり。				

配管
配管

主要構造
支持構造

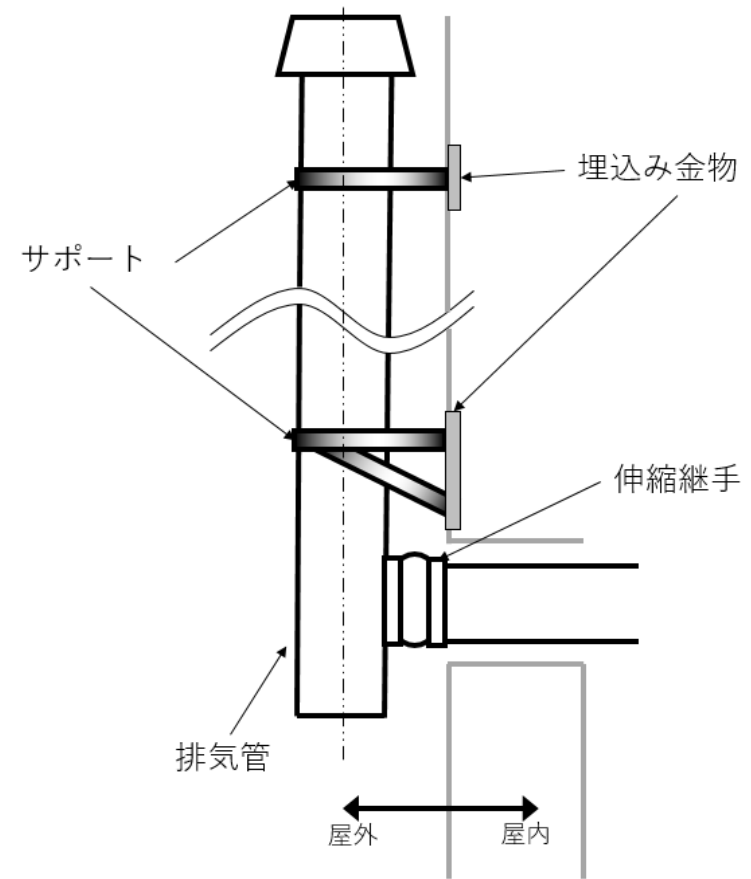
鋼製の配管及び弁で構成する
配管及び弁は支持構造物により，冷却塔本体の支持架構又は基礎上面から支持する



名称	評価対象部位	竜巻						火山			
		計算手法		審査実績等				計算手法			
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算	解析	審査実績
配管	配管	○		○				耐震設計された配管であり、第1回申請にて審査済			
竜巻防護対策設備に内包されない配管	配管		○				○				
	支持構造物	○					○				
ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋換気設備の排気系	配管本体	○		○			○	耐震設計された配管であり、第1回申請にて審査済			

排気管及びベント管
安全蒸気ボイラの排気管

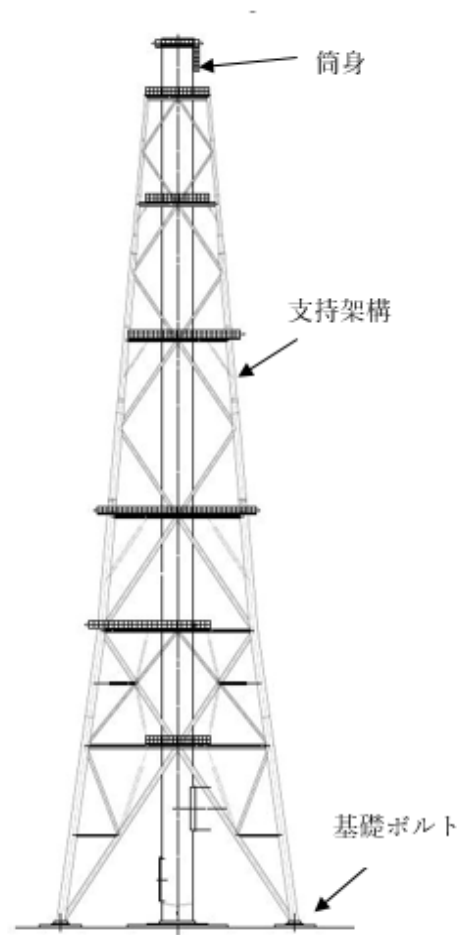
主要構造 鋼管で構成する
支持構造 排気管はサポートにより建屋壁等から支持する



名称	評価対処部位	竜巻						火山			
		計算手法		審査実績等				備考	計算手法		審査実績
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし		手計算	解析	
安全圧縮空気系の安全空気脱湿装置の再生空気排気管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
第1非常用ディーゼル発電機の燃料デイトンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
第1非常用ディーゼル発電機の重油タンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
第1非常用ディーゼル発電機の潤滑油タンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
第2非常用ディーゼル発電機の燃料貯蔵タンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
第2非常用ディーゼル発電機の潤滑油タンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
重油貯槽のベント管	配管本体	○				○		構造の違いはあるが、発電炉（大飯等）の評価手法と同様であり、審査済。			
	架台	○				○					
燃料油サービスタンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			
緊急時対策建屋用発電機の潤滑油タンクのベント管	配管本体	○		○		○		両端を支持された配管および片持ちの配管で構成される。両端支持はNo. 35と同じであり、片持ちは発電炉（東二）にて審査実績あり			

排気筒
主排気筒

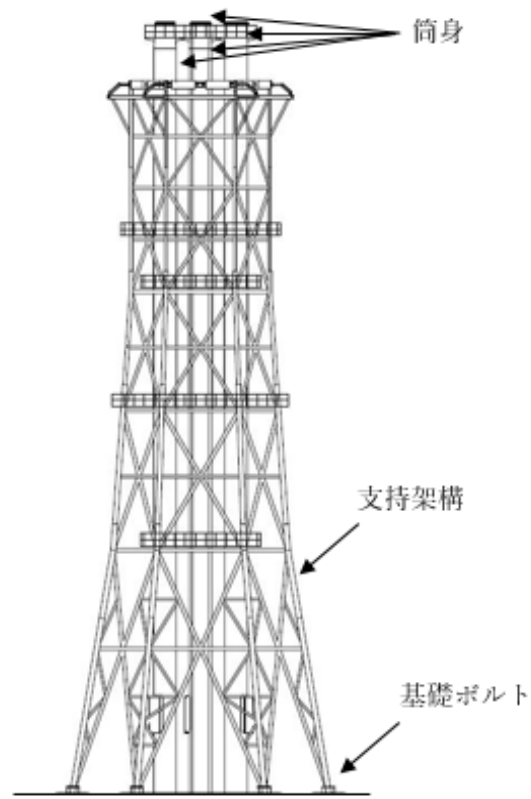
主要構造 鋼管を主体構造とする筒身を支持架構で支持する構造とする
支持構造 コンクリート基礎に基礎ボルトで固定する



評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				備考	計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし		手計算	解析	
鉄塔		○	○		○		欠損評価については、発電炉（東二）にて審査実績あり。 NG部材に対する解析は、飛来物防護ネットの支持架構における衝突解析と同様であり、第1回申請にて審査済。		○	構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様である。
柱脚部	○			○			耐震評価と同様の評価手法			
筒身		○				○	審査実績はない。（竜巻防護対策設備に内包されない配管と同じ評価となる。）			

排気筒
北換気筒

主要構造 鋼管を主体構造とする筒身を支持架構で支持する構造とする
支持構造 コンクリート基礎に基礎ボルトで固定する



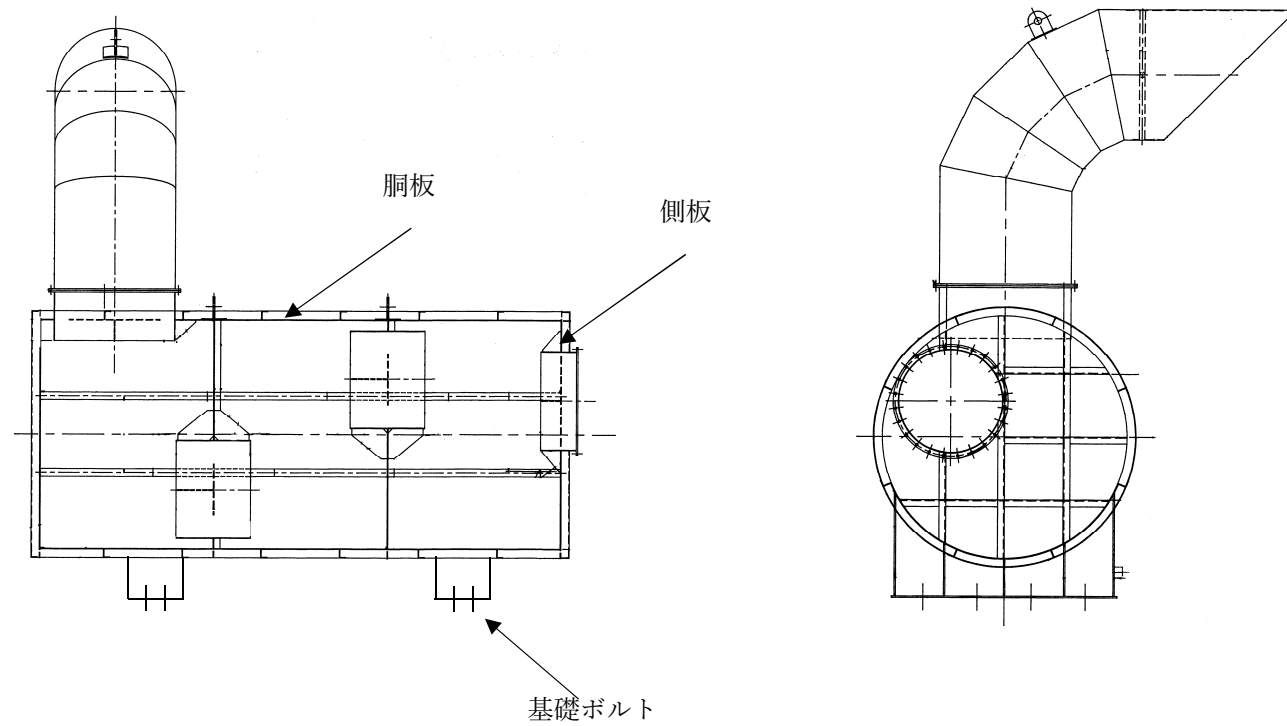
評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				備考			
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析	審査実績	
鉄塔		○	○		○		欠損評価については、発電炉（東二）にて審査実績あり。 NG部材に対する解析は、飛来物防護ネットの支持架構における衝突解析と同様であり、第1回申請にて審査済。		○	構造の違い（受圧面積の違い）はあるが、評価手法は第1回申請のA4Bと同様である。
柱脚部		○		○						

消音器

ディーゼル発電機の排気消音器

主要構造
支持構造

胴板、側板、排気管から構成する
基礎ボルトにより建屋に直接支持され、基礎ボルトを介して荷重を基礎に伝達する構造とする



名称	評価対処部位	竜巻						火山			
		計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
第1非常用ディーゼル発電機のディーゼル機関の排気消音器	基礎ボルト		○	○				解析モデルは異なるが、竜巻防護対策設備の防護板の取付ボルトと同様の評価であり、第1回申請にて審査済			
第2非常用ディーゼル発電機のディーゼル機関の排気消音器	取付ボルト	○					○	発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			
緊急時対策建屋用発電機の排気消音器	基礎ボルト	○		○				発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			

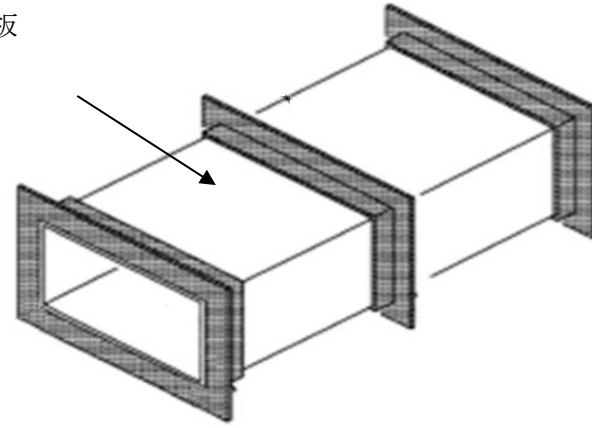
換気空調設備

角ダクト, 丸ダクト及び配管

主要構造 鋼製のダクト, 配管及び弁で構成する
 支持構造 ダクト及び配管は、支持構造物により建屋床・壁等から支持する

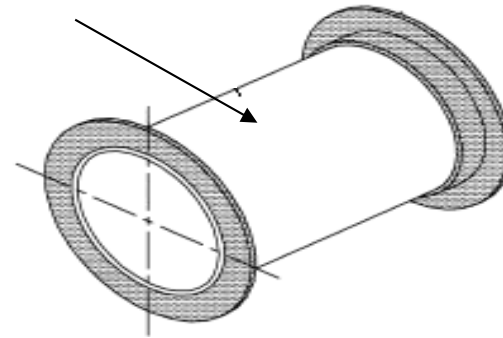
角ダクト

ダクト鋼板



丸ダクト

ダクト鋼板



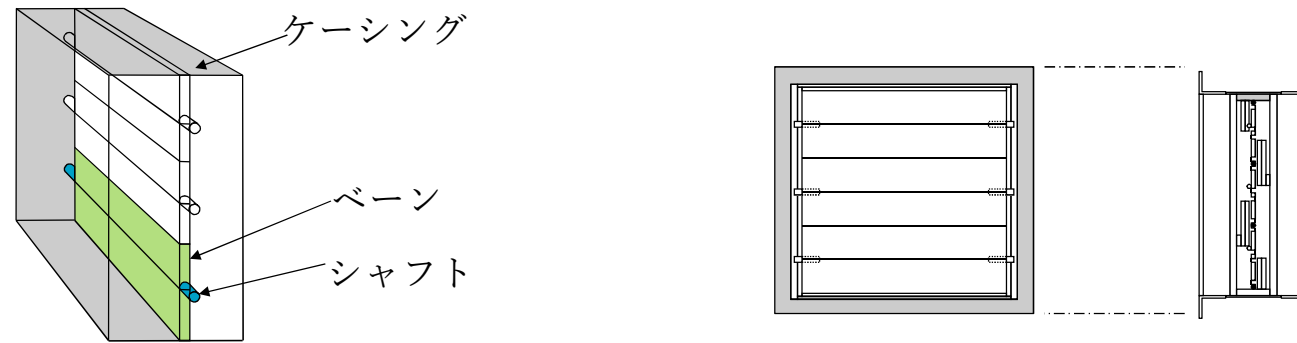
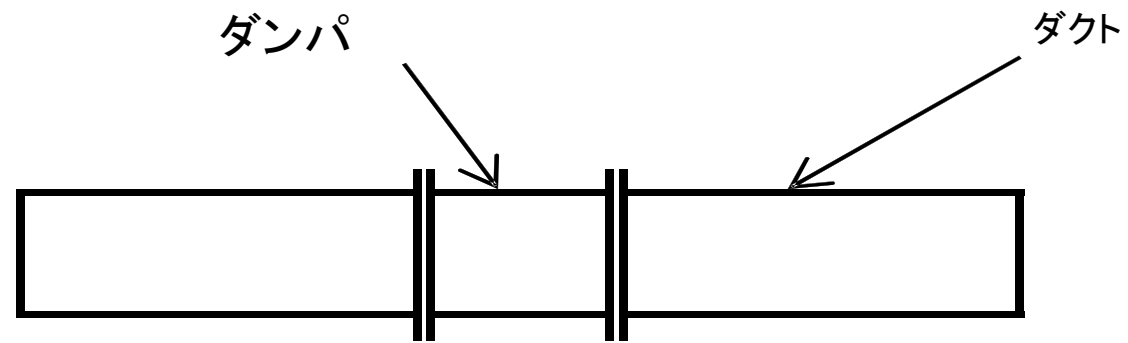
名称	評価対象部位	竜巻						火山			
		計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
角ダクト	ダクト鋼板	○				○		発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			
丸ダクト	ダクト鋼板	○				○		発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			

換気空調設備

ダンパ

主要構造 鋼製のケーシング、ベーン及びシャフトにより構成する。

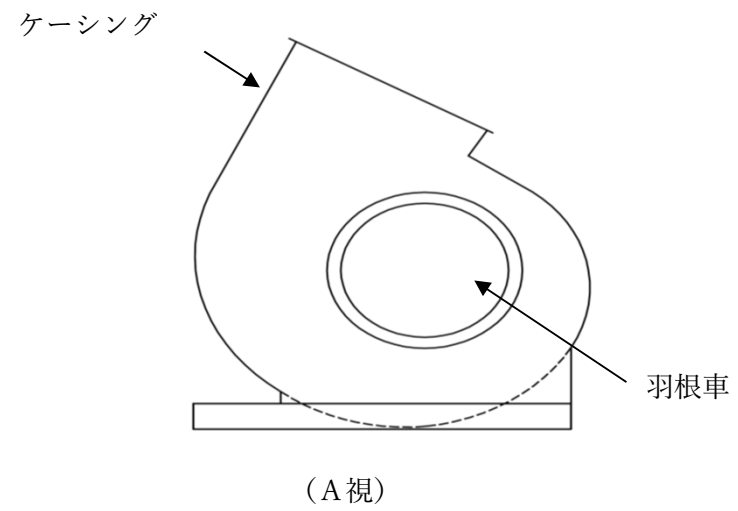
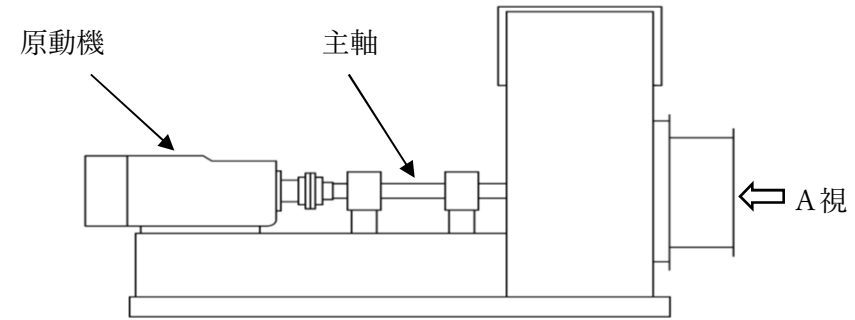
支持構造 ダクトにより支持する。



評価対象部位	竜巻						火山			
	計算手法		審査実績等				備考	計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし		手計算	解析	
ケーシング	○				○		発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			
ベーン	○				○		発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			
シャフト	○				○		発電炉（東二等）で審査実績があり、同様の評価内容である。			

換気空調設備
排風機

主要構造 ケーシング及びケーシング内の主軸，羽根車で構成する
支持構造 床に基礎ボルトで支持する

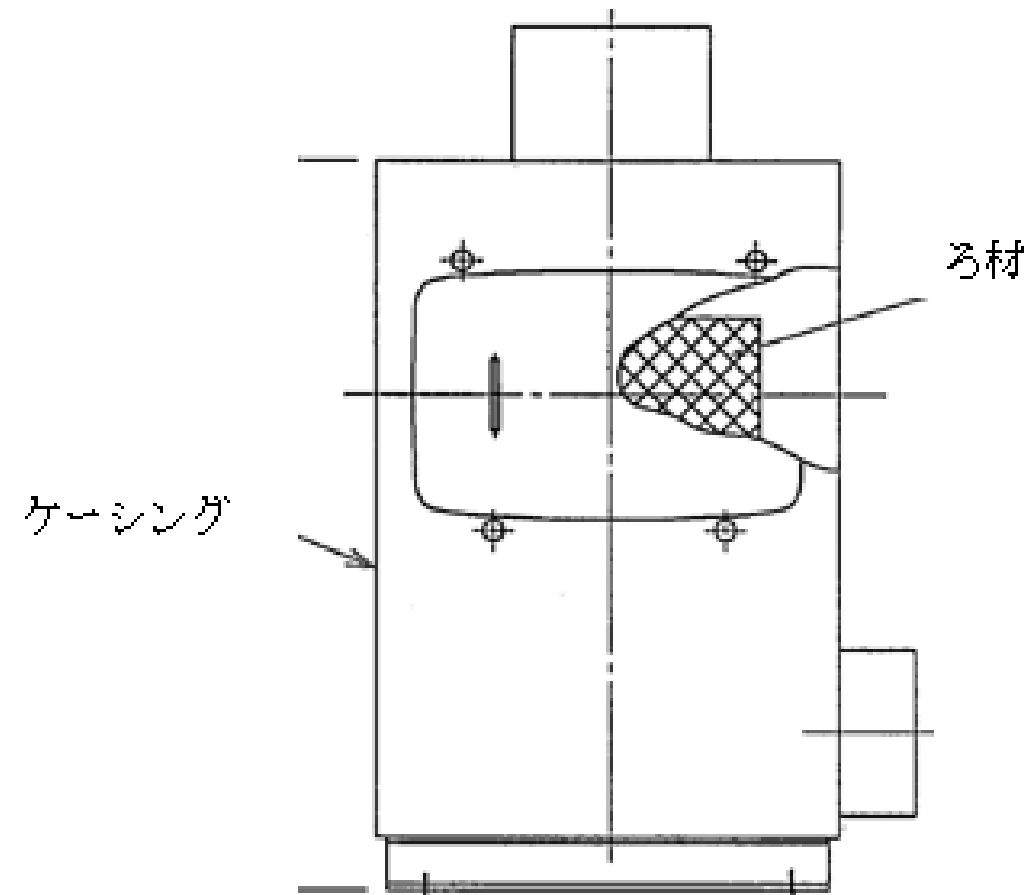


評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績		
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
ケーシング	○				○		備考				
							角ダクトと同様の評価手法である。				

換気空調設備

フィルタユニット

主要構造 ケーシング及びケーシング内のろ材で構成する
 支持構造 床に基礎ボルトで支持する

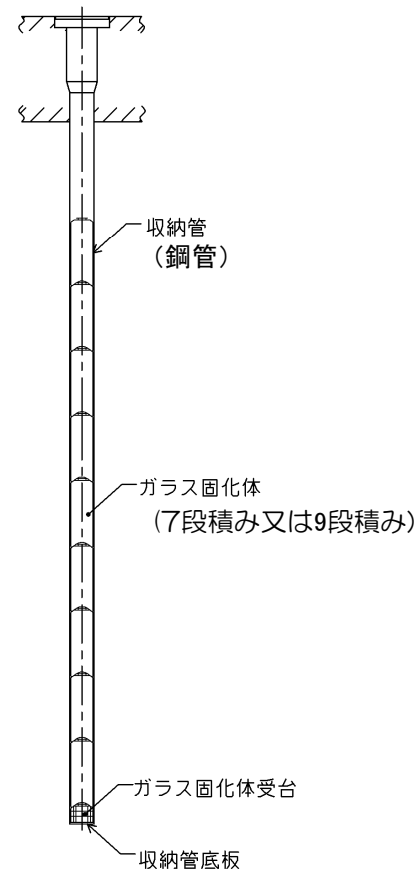


名称	評価対象部位	竜巻							火山		
		計算手法		審査実績等				備考	計算手法		審査実績
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし		手計算	解析	
フィルタユニット	ケーシング	○				○		角ダクトと同様の評価手法である。			
空調ユニット	ケーシング	○				○		角ダクトと同様の評価手法である。			

換気空調設備

収納管

主要構造 鋼管で構成する
 支持構造 収納管は支持構造物により、建屋の貯蔵ピット天井から支持する



評価対象部位	竜巻						火山				
	計算手法		審査実績等				備考		計算手法		審査実績
	手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	手計算	解析			
収納管本体（底板）	○					○					
収納管本体（円筒部）					○		丸ダクトと同様の評価手法である。				

建屋

前処理建屋

主要構造

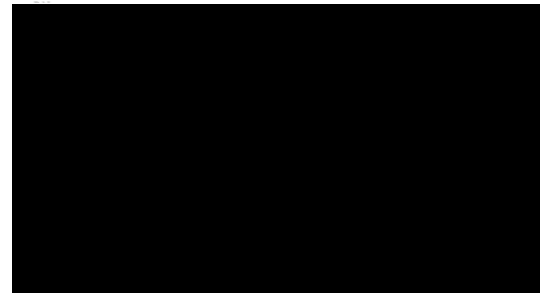
鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造及び鉄骨造）である。

支持構造

基礎スラブはマンメイドロックを介して岩盤に設置されている。



(a)NS方向



(b)EW方向

単位：m

前処理建屋□概略断面図

建屋	評価対象部位	竜巻						火山			
		計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績	
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析
前処理建屋	耐震壁	○	-	○				設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○				設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○		Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
	扉	○	○	○		○		BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし

分離建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
	扉	○	○	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし
精製建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
	扉	○	○	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし
ウラン・プルトニウム混合脱硝建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
	扉	○	○	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし
高レベル廃液ガラス固化建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
	扉	○	○	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし

使用済燃料受入れ・貯蔵建屋	耐震壁	-	○	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	-	○	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
ウラン脱硝建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
ウラン酸化物貯蔵建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
ウラン・プルトニウム混合酸化物貯蔵建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
第1 ガラス固化体貯蔵建屋	耐震壁、架構	○	-	○		○	設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。 また、設計荷重(竜巻)が作用することにより架構に生じる層間変形角の評価については、発電炉(高浜)にて審査実績あり。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。 また、設計荷重(火山)が作用することにより架構に生じる層間変形角の評価については、発電炉(高浜)にて審査実績あり。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	○	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。一部、裏面剥離限界厚さに満たない箇所については、解析により裏面剥離が生じないことを確認する。解析による評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし

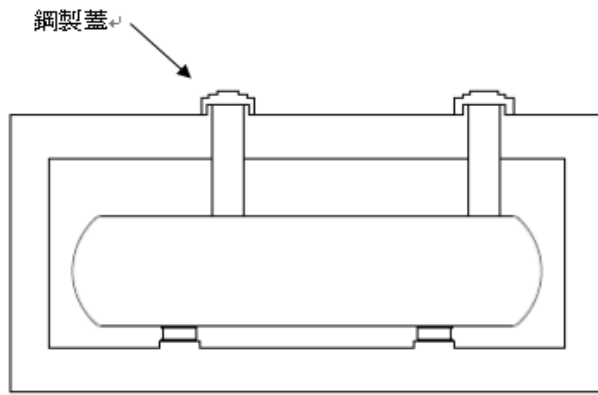
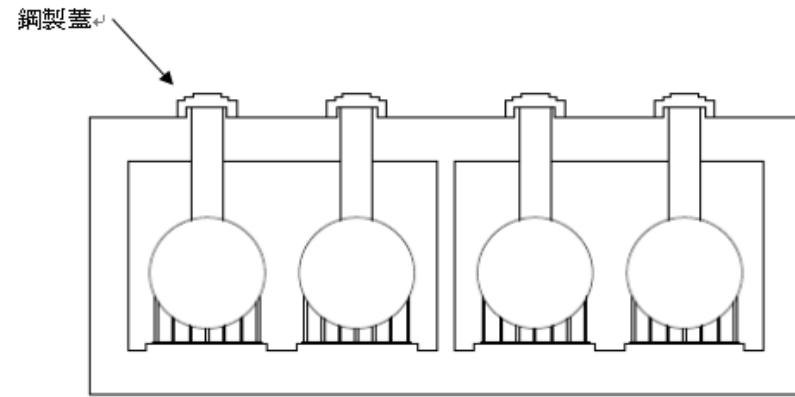
チャンネルボックス・バーナブルポイズン処理建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
ハル・エンドピース貯蔵建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
制御建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
分析建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
非常用電源建屋	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	扉	○	○	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。 カンヌキの評価については、発電炉(東海)にて審査実績あり。	○	○	評価対象なし
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。			
	鋼製蓋	○	-	○		○	BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済み。			

緊急時対策所	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
第1保管庫・貯水所	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
第2保管庫・貯水所	耐震壁	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより耐震壁に生じるせん断ひずみの評価であり、第1回申請にて審査済み。
	屋根	○	-	○			設計荷重(竜巻)が作用することにより、屋根に鉛直上向きに生じる荷重条件に対するの評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	設計荷重(火山)が作用することにより、屋根に鉛直下向きに生じる荷重条件に対する評価であり、第1回申請にて審査済み。
	外殻となる壁及び屋根、フード	○	-	○		○	Degen式を用いた貫通評価及びChang式を用いた裏面剥離評価であり、第1回申請にて審査済み。	○	-	評価対象なし
使用済燃料受入れ・貯蔵管理建屋	耐震壁	○	-	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重(竜巻)の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価(保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較)の審査済み。変形評価での設計荷重(竜巻)が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉(東海)にて審査実績あり。			評価対象なし
使用済燃料輸送容器管理建屋	耐震壁	○	○	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重(竜巻)の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価(保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較)の審査済み。変形評価での設計荷重(竜巻)が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉(東海)にて審査実績あり。			評価対象なし
事務建屋	耐震壁	○	-	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重(竜巻)の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価(保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較)の審査済み。変形評価での設計荷重(竜巻)が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉(東海)にて審査実績あり。			評価対象なし
低レベル廃棄物処理建屋	耐震壁	○	-	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重(竜巻)の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価(保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較)の審査済み。変形評価での設計荷重(竜巻)が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉(東海)にて審査実績あり。			評価対象なし

出入管理建屋	耐震壁	○	-	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重（竜巻）の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価（保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較）の審査済み。変形評価での設計荷重（竜巻）が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉（東海）にて審査実績あり。			評価対象なし
運転訓練施設	耐震壁	○	-	○	○	○	耐力評価での保有水平耐力と設計荷重（竜巻）の比較については、第1回申請にて耐震評価にて類似評価（保有水平耐力と必要保有水平耐力の比較）の審査済み。変形評価での設計荷重（竜巻）が作用することにより生じる最大相対変位の評価であり、発電炉（東海）にて審査実績あり。			評価対象なし

第1 非常用ディーゼル発電設備重油タンク室

主要構造 地下に埋設された外殻の躯体を鉄筋コンクリート造とし、地上部に露出する開口部は鋼製蓋により構成する。
 支持構造 荷重は地上に露出した鋼製蓋に作用し、鉄筋コンクリート造の躯体を介し、基礎版へ伝達する設計とする。



名称	評価対象部位	竜巻						火山				
		計算手法		審査実績等				計算手法		審査実績		
		手計算	解析	第1回	耐震	発電炉	なし	備考	手計算		解析	
第1 非常用ディーゼル発電設備重油タンク室	鋼製蓋	○		○		○			BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済			
第1 軽油貯蔵所	鋼製蓋	○		○		○			BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済			
第2 軽油貯蔵所	鋼製蓋	○		○		○			BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済			
重油貯蔵所	鋼製蓋	○		○		○			BRL式を用いた貫通評価であり、第1回申請にて審査済			